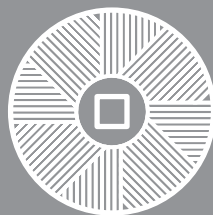


ISSN0913-8838

製粉 振興

2022
No.616
1



一般財団法人

製粉振興会

★目次

年頭に当たって 3
一般財団法人製粉振興会 理事長 梶島達也

年頭所感 5
農林水産省農産局長 平形雄策

国内産小麦の民間流通の取引概要
(令和4年産の入札を中心に) 7
製粉協会 常務理事
浦田高宣

プレミックス製造業の概要 16
日本プレミックス協会 常務理事
安田洋一

児童生徒等のパンに対するニーズに関する
アンケート調査結果について 22
パン食普及協議会事務局 (一社)日本パン工業会専務理事
阿部勲

製粉と小麦粉のお国ぶり —その50—
ウズベキスタン 29
一般財団法人製粉振興会 参与 農学博士 長尾精一

小麦粉のある風景
あったか冬のめん 31
食文家 ひらのあさか

世界の粉界展望 39

製粉産業をめぐる2021年10大ニュース 33
業界ニュース 34
国内資料 62
編集後記 75

年頭に当たって



一般財団法人製粉振興会 理事長
梶島 達也

令和4年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

先ず初めに、日頃より当会の事業運営に当たり多大なご支援、ご協力を頂いていることに、あらためて感謝申し上げますとともに、本年も何卒よろしく願い申し上げます。

本年も先ずは何をおいても、いまだ世界中の経済や社会生活に大きな影響を与え、次々に変異株が広がるなど、先が見えない新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応が最大の課題であります。国内はもとより、地球規模で連携して対応することが求められています。

とりわけ足元では、変異株であるオミクロン株の感染拡大が懸念されております。この「製

粉振興1月号」が皆様のお手元に届くころは、ちょうど年末年始の人の動きの結果としての新規感染者数の動向が明らかになっている時期です。その拡大傾向によっては、緊急事態宣言の発令等による経済や社会生活への負の影響が懸念されていますので、旅行や外食などで羽を伸ばしたい気持ちはあるものの、ほとんどの国民や社会的な責務も負う企業の行動は、引き続き慎重になっていると思っております。

製粉業界に限ってみても、新型コロナウイルスの蔓延以降、外食や観光などの業務用需要が大幅に減少し、昨年はやや持ち直してきた分野もあるようですが、従前に戻ったとはとても言えない状況が続いております。

これらの変化は劇的で、かつ、前例のない大きなものでしたが、原料調達、製造・輸送・販売の各段階の関係者の努力により、なんとか乗り越えてきております。本年は、本格的に需要が回復することを期待したいものです。

また、昨年は輸入小麦の政府売渡価格が大幅に引き上げられました。加えて、原油価格や海上運賃の高騰などにより、小麦以外の原材料コストや国内配送コスト等も上昇しています。

製粉業界にとっては、この政府売渡価格引き上げへの対応が大きな課題となっております。昨年4月期に5.5%引上げられ、更に10月期には、19.0%という過去2番目の大幅な引上げとなり、結果として、平成27（2015）年4月期以来となる、トン当たり6万円の大台を超える事態となっております。

こうした厳しい状況の中で、昨年末に、農林

水産省が食品製造業者と小売業者との間の適正取引を推進するためのガイドラインを策定しました。

また、当会としても、製粉協会及び協同組合全国製粉協議会の要望を受け、昨年10月に、小麦の政府売渡価格の大幅な引上げが行われたこととその背景について周知を図るための新聞広告等を行いました。

こうした取り組みを通じて、流通関係者、小麦粉の実需者、さらには消費者のご理解が得られ、適切な価格転嫁が図られるよう、努めていくことが重要です。

国際関係では、一昨年までに効力を発しているTPP11協定、日EU・EPA協定、日米貿易協定、また昨年に発効した日英EPA協定による関係品目の関税引き下げが本年も進展することとなっております。更に、本年1月からRCEP(東アジア地域包括的経済連携)も発効しており、製粉企業や小麦粉の実需企業を含めた業界全体にとって、これら毎年変化していく国境措置への対応の重要性がますます高まっております。

これらに加えて、国内でもHACCPの義務化への対応や新型コロナウイルスへの企業内の感染対策、これを踏まえた新たな営業や働き方への対応など、課題が山積しています。

他方、内麦については、これまでの「逆ミスマッチ」から、一昨年に引き続いて昨年も「ミスマッチ」の状況になりました。一昨年の年頭所感で『産地銘柄によっては供給側が需要に的確に対応できていないのではないか』と述べましたが、内麦が抱えている課題が二年続いて入札結果に反映されたということではないかと思えます。生産者(団体)もこのことを重く受け止めていただきたいと思います。

令和2(2020)年3月に策定された「食料・農業・農村基本計画」においては、国産小麦の生産努力目標(令和12年度)が108万トンとされており、この目標を達成するためには、品質

向上と安定供給等の課題を関係者の努力によって克服していくことが必要ですが、なによりも重要なのは、「需要に対応した供給を行う」ということではないでしょうか。引き続き肥培管理の徹底に取り組んでいただくとともに、例えば、ロットごとにタンパク含有量のバラツキが大きいなどの課題の解決も重要であると思います。

最後に当会の事業に関してですが、昨年も、緊急事態宣言等によって、引き続き一部の事業が中止や縮小を余儀なくされましたが、規模の縮小やネット配信などの創意工夫を行いながら、製粉講習会及び製粉教室の再開にこぎつけました。今年も蔓延防止措置にしっかりと取り組みながら、引き続き、小麦粉の需要拡大、小麦粉に関する知識の普及、これらの活動に対する助成、各地域の製粉企業の活動への助成などに努めてまいります。

この一環として、2月1日を目途として、当会のホームページを一新し、より多くの皆様にご覧いただけるようにするとともに、製粉企業の皆様方との連携がより効率的に行えるよう、会員ページを設けますので、ぜひともご覧下さい。また、当ホームページの改善のためのご意見をお寄せいただければ幸いです。

このほか、これまでも製粉企業を始めとして多くの皆様にご覧いただいている「小麦粉の魅力」の改訂作業を鋭意行っており、この春には改訂版を皆様へ送付させていただく予定としております。

また、内閣府から認可を受けた公益事業である、事業再編に取り組む製粉企業への助成と製品の安全・安心の確保に取り組む活動への助成を引き続き着実に執行してまいります。

本年も引き続き、当会に対するご支援をお願い申し上げますとともに、新型コロナウイルス対策の効果があがり、一刻も早く経済・社会活動が従前の状態に戻り、本年が皆様方にとってより良き年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

年頭所感



農林水産省農産局長
平形 雄策

新春を迎えるに当たり、謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

製粉企業の皆様方におかれましては、日頃より、農林水産行政の推進、とりわけ小麦粉等の安定供給に格段の御貢献・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んだ結果、秋以降は新規感染者数が減少し、飲食・イベントに関する制限も緩和され、経済活動に明るい兆しも見え始めています。一方で、新たな変異株の発生により、海外との往来制限が再び強化されるなど予断を許さない状況です。

製粉業界においては、外出自粛や新しい生活様式の定着による業務用需要の減少等から小麦粉の生産量がコロナ前と比べ減少し、製粉企業の経営にも影響が出ていますが、厳しい状況にあっても、小麦粉等の安定供給のために御尽力いただいていることに重ねて感謝申し上げます。

また、昨年は、小麦をはじめ、とうもろこし、大豆、粗糖等の農産品だけでなく、原油、海上運賃など広範な原材料、資材、サービスの価格が上昇した一年でもありました。

小麦の国際価格は1月以降、中国等の旺盛な需要等を背景に上昇し、特に6月以降、米国、カナダの産地において高温乾燥により作柄が悪化したことで高騰しました。

買付価格が上昇したことで、輸入小麦の政府売渡価格も前期比で令和3年4月期には5.5%増、10月期には海上運賃の高騰や円安も影響し、19.0%増の引上げとなり、事業者や消費者の皆様には価格転嫁等を通じて御負担をおかけすることとなりました。

小麦は国内需要の約9割を輸入に依存し

ているため、国際価格の影響は避けられませんが、引上げの要因である国際需給の状況等の背景について、メディア等に丁寧な説明を行い、理解の増進に努めてきたところです。

米国農務省の需給見通しでは、2021/22年度の世界の小麦生産量の見通しは史上最高、期末在庫率も高水準が維持されていますが、小麦の国際価格は、輸出国での減産懸念やロシアの輸出規制等も材料となり、シカゴ相場が8ドル／ブッシェル台となるなど高水準が続いています。

引き続き、製粉企業や商社の皆様と連絡を密にしながら、国際需給や輸出国の物流の状況等を注視し、円滑な調達と安定供給に向けて取り組んでまいります。

国内産小麦については、令和3年産も北海道、九州を中心に豊作となりましたが、重要なことは需要に応じた生産の推進だと考えています。

近年は、外国産小麦に負けない品質の国

内産小麦も出てきていますが、年ごとの豊凶変動や地域ごとの品質格差が大きい等の課題もあることから、「麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト」により、産地の生産体制の強化や、需要に応える供給の実現・国産使用拡大のための支援を行っているところです。

食料・農業・農村基本計画における令和12年度の小麦の生産努力目標108万トンの実現に向けて、引き続き、製粉業界の皆様とも連携しながら取り組んでまいります。

本年も新型コロナウイルスの影響がいつまで続くか見通すことが難しい状況ですが、コロナ後も視野に入れながら、農林水産業・食品産業の発展に向けて取り組んでまいりますので、引き続き、製粉企業の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

国内産小麦の民間流通の取引概要 (令和4年産の入札を中心に)

浦田 高宣

○ はじめに

令和3年産小麦が、天候に恵まれ生育が順調であったことから、3年連続で豊作となったため、小麦の需給がさらに緩和し、令和4年産ではミスマッチが大幅に拡大した。加えて、割高感が続いていた北海道産の価格が低下したことを反映し、令和4年産においては、入札全体の落札加重平均価格が基準価格対比で94%となった。

令和5年産に向けた民間流通の仕組の見直しの議論は、これから始まるところであるが、こうした大きな需給動向の変化を踏まえながら、生産及び実需双方で議論を深め、安定的な取引の確保を図ることが喫緊の課題と考えている。

1 令和4年産の仕組について

民間流通の仕組については、毎年、民間流通連絡協議会作業チームで課題の整理・検討が行われている。

令和3年産がミスマッチに転じ、北海道産を中心に需給が緩和したことなどから、中期的な生産の進め方や品質向上、品種開発等について議論することが喫緊の課題であった。しかしながら、新型コロナウイルス感染が沈静化していなかったことを踏まえ、作業チーム及び5月の本協議会ともに書面開催となったことなどから、令和4年産の仕組については従前のルールが踏襲されることとなった(令和4年産の入札上場比率の上限についても前年産と同様、40%

と決定された)。

2 令和4年産の入札に至るまでの動き

(1) 令和4年産の入札取引に向けた民間流通手続の日程

令和3年5月に(書面)開催された民間流通連絡協議会において令和4年産の民間流通の仕組が決定されたが、令和4年産民間流通麦に係る諸手続については、以下の日程で進められた。

7月1日	販売予定数量の提示(生産⇒実需)
7月15日	購入希望数量の提示(実需⇒生産)
7月中～8月初旬	地方連絡協議会(原則、書面)
8月27日	第162回民間流通連絡協議会作業チーム(書面) (情報交換、入札取引内容)
9月15日、29日	入札取引
10月22日以降	相対取引

(2) 地方協議会の開催

取引の仕組の決定後、昨年も生産サイドの協議における新型コロナ感染の影響などを考慮し、数量提示は従来より半月程度後ろ倒しされた。具体的には、7月1日に生産者サイドから令和4年産の販売予定数量が提出され、実需者サイドからの購入希望数量の提出は7月15日となった。

販売予定数量及び購入希望数量の提示を受け、従来であれば、7月中旬から8月初旬の間に各地で地方協議会が対面で開催されるが、地方協議会の開催については、原則、書面開催となった（福岡、佐賀県についてはWEB併用での開催となった）。

書面開催となったものの、地方協議会として、例年同様、令和3年産の作柄・品質状況、産地における品質向上・物流改善の取組み、販売予定数量等について報告・確認が行われた。

(3) 民間流通連絡協議会作業チームの開催

地方協議会における各産地と結び付きの実需者との意見・情報交換を経て、8月27日に、民間流通連絡協議会作業チームが書面方式で開催された。

作業チームでは、地方協議会での意見交換を踏まえて検討・修正された令和4年産の販売予定数量及び購入希望数量が提示され、入札実施機関である全国米麦改良協会から入札関係スケジュール、義務上場銘柄及び上場数量、上場銘柄の入札基準価格等が提示された。

(ア) 販売予定数量（表－1）

生産者サイドから提出された令和4年産の販売予定数量は887千トﾝであり、前年産の864千トﾝを約23千トﾝ上回った。北海道産は583千トﾝ、府県産は304千トﾝとなった。

(イ) 購入希望数量（表－1）

一方、実需者サイドから提出された購入希望数量は796千トﾝであり、前年産の813千トﾝを約17千トﾝ下回った。北海道産の購入希望数量は511千トﾝ、府県産は285千トﾝとなった。

(ウ) 需給ギャップ（表－1及び表2）

平成28年産から令和2年産までは、購入希望数量が販売予定数量を上回る逆ミスマッチの状況であったが、一転して、3年産の全体需給は約5万トﾝのミスマッチとなった。その

後、4年産では約9万トﾝのミスマッチと前年の倍近くに拡大した。

主要な産地銘柄の需給関係は表2のとおり、一部を除き、主要銘柄の多くがミスマッチとなっており、国内産小麦の基幹銘柄である北海道産の「きたほなみ」と「ゆめちから」が、前年に引き続き3万トﾝ前後の大きなミスマッチとなった。全体の需給ギャップは前年に続きミスマッチとなったが、4年産の入札では、産地銘柄別の価格は、需給がミスマッチでも堅調となったものもあり、一部、需給状況と落札価格との関係が連動しない結果となった。

【需要拡大推進枠（表－3－1、3－2）】

令和4年産における需要拡大推進枠の取組状況については、福岡県産「ちくしW2号」について、3年産より少し大きな目標が設定された（5909トﾝ→6338トﾝ）が、それ以外の5産地銘柄については前年産と同数の目標枠が設定された。なお、4年産では、新規枠が設定された産地銘柄はなかった。

需要拡大推進枠の対象となる新規の産地銘柄があまり増えていないこと及び各産地銘柄に設定される目標数量にほとんど変化がないことなどから、推進枠の在り方について議論を始める時期にきたのではないかと感じている。

3 令和4年産の入札取引（表－4、5、6）

(1) 上場銘柄

販売予定数量（「需要拡大推進枠」を設定する産地銘柄にあつては優先数量を除く。）が3千トﾝ以上で、県内流通の割合が80%以下の産地銘柄は「義務上場」とされている（なお、それ以外の銘柄でも「希望上場」が可能）。令和3年産の上場銘柄は13道県の25産地銘柄（義務上場24銘柄、希望上場1銘柄）となった（希望上場銘柄

表－1 販売予定数量と購入希望数量

(単位：トン)

	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	令和2年産	令和3年産	令和4年産
販売予定数量	909,302	904,743	879,585	819,852	845,673	834,319	823,914	808,067	864,275	887,114
北海道産	611,700	621,026	595,510	534,711	568,674	563,352	553,996	534,859	575,431	583,009
府県産	297,602	283,717	284,075	285,141	276,999	270,967	269,918	273,208	288,844	304,105
購入希望数量	869,002	751,167	801,530	834,325	874,823	880,281	862,976	880,438	813,410	795,889
北海道産	535,660	446,710	513,791	539,008	573,470	568,328	564,553	587,807	528,269	511,374
府県産	333,342	304,457	287,739	295,317	301,353	311,953	298,423	292,631	285,141	284,515
(逆) ミスマッチの状況										
北海道産	76,040	174,316	81,719	-4,297	-4,796	-4,976	-10,557	-52,948	47,162	71,635
府県産	-35,740	-20,740	-3,664	-10,176	-24,354	-40,986	-28,505	-19,423	3,703	19,590
(逆) ミスマッチ計	40,300	153,576	78,055	-14,473	-29,150	-45,961	-39,061	-72,371	50,865	91,225

表－2 令和4年産小麦 主要産地銘柄のマッチング状況

(単位：トン)

	購入希望数量①	販売予定数量②	(逆) ミスマッチ ②－①	3年産 (逆) ミスマッチ
北海道春よ恋	33,270	39,738	6,468	-6,390
北海道きたほなみ	412,972	442,872	29,900	33,400
北海道ゆめちから	52,001	87,294	35,293	23,969
茨城さとのそら	13,050	12,098	-952	-1,524
栃木さとのそら	3,040	3,059	19	28
群馬さとのそら	13,378	15,766	2,388	843
埼玉さとのそら	12,260	14,438	2,178	167
岐阜さとのそら	3,856	4,542	686	114
愛知きぬあかり	17,331	18,100	769	5,798
滋賀農林61号	4,940	5,499	559	493
さぬきの夢2009	2,384	7,531	5,147	2,924
福岡シロガネコムギ	21,105	20,198	-907	-281
福岡チクゴイズミ	14,790	18,594	3,804	4,099
福岡ミナミノカオリ	4,590	5,952	1,362	155
佐賀シロガネコムギ	24,099	23,402	-697	-3,364
佐賀チクゴイズミ	8,764	11,612	2,848	1,744
大分チクゴイズミ	1,785	4,695	2,910	2,135

は宮城県産「シラネコムギ」。

(2) 上場銘柄の基準価格

入札基準価格は、24年産以降「基準価格は、

前年産の指標価格に当該年産の第1回入札時点の変動率（外国産麦の政府売渡価格の変動率）を乗じた価格」とされており、令和4年産の入

表-3-1 令和3年産麦における需要拡大推進枠(取組結果)

(単位:トン)

需要拡大取組者名	用途	対象地域	産地銘柄	優先数量	目標	2年度実績
道産小麦需要拡大推進協議会	学校給食用パン、めん菓、菓子用等	北海道内	北海道産きたほなみ	15,590	15,590	15,590
栃木県小麦利用拡大推進協議会	学校給食用、パン、乾麺用	栃木県内	栃木県産さとのぞら	200	200	200
愛知県産ゆめあかり需要拡大推進協議会	学校給食用、パン用・麺用	愛知県内	愛知県産ゆめあかり	1,270	1,270	なし
山口県産小麦需要拡大推進協議会	学校給食用	山口県内	山口県産せときらら	1,000	1,000	1,000
「さぬきの夢」需要拡大プロジェクト	うどん・素麺用	香川県内	香川県産さぬきの夢2009	500	500	310
福岡県ラー麦普及推進協議会	ラーメン用	福岡県内	福岡県産ちくしW2号	5,909	6,000	6,884

表-3-2 令和4年産麦における需要拡大推進枠の設定

(単位:トン)

需要拡大取組者名	用途	対象地域	産地銘柄	優先数量
道産小麦需要拡大推進協議会	学校給食用パン・めん	北海道内	北海道産きたほなみ	3,400
	麦チェーンサポーター店パン・麺・菓子用	北海道内	北海道産きたほなみ	6,550
	北海道製麺組合めん用	北海道内	北海道産きたほなみ	3,000
	北海道冷凍食品協会冷凍食品用	北海道内	北海道産きたほなみ	2,600
栃木県産小麦利用拡大推進協議会	学校給食用、パン、乾麺用	栃木県内	栃木県産さとのぞら	200
愛知県産ゆめあかり需要拡大推進協議会	学校給食用、パン用・麺用	愛知県内	愛知県産ゆめあかり	1,270
山口県産小麦需要拡大推進協議会	学校給食用	山口県内	山口県産せときらら	1,000
「さぬきの夢」需要拡大プロジェクト	「さぬきの夢」うどん・素麺用	香川県内	香川県産さぬきの夢2009	500
福岡県ラー麦普及推進協議会プロジェクト	ラーメン用	福岡県内	福岡県産ちくしW2号	6,338

札基準価格は、前年産の指標価格に輸入麦の政府売渡価格の変動率(1.01)を乗じて算出された価格である。

(3) 入札日

入札は、前述のとおり、第1回を9月15日、第2回を9月29日に行うことが決定された。なお、再入札は実施されなかった。

(4) 入札結果

(ア) 申込数量倍率

全銘柄の申込数量倍率は、上場数量227,160トに対して、申込数量244,540トと1.1倍であった。第1回入札、第2回入札の申込倍率は、それぞれ1.1倍及び1.0倍であった。

表-4 令和4年産の入札結果

(単位：トン、円/トン)

	産地	産地銘柄	第1回入札	第2回入札	全体
入札上場数量	13道県	25	113,690	113,470	227,160
申込数量			89,020	118,020	244,540
申込数量倍率			1.1	1.0	1.1
落札数量			89,020	79,130	168,150
落札残数量					59,010
	1回目	13道県	25	24,670	24,670
	2回目	13道県	25	34,340	34,340
落札価格(税抜)			49,689	49,946	49,810
基準価格(々)			53,211	52,703	52,972
価格対比(%)			93.4	94.8	94.0

表-5 年産別入札結果

	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	2年産	3年産	4年産
申込倍率	1.14	0.97	1.29	1.43	1.45	1.45	1.4	1.5	1.2	1.1
落札残数量(トン)	24,290	56,080	41,770	12,220	7,320	7,940	9,780	6,530	54,820	59,010
基準価格(円/トン、税抜き)①	50,663	53,710	45,608	47,190	43,752	45,929	53,528	57,835	55,203	52,972
落札価格(円/トン、税抜き)②	46,984	46,970	46,083	50,152	47,750	49,652	57,143	60,253	52,516	49,810
価格対比(%)②/①	92.7	87.5	101.0	106.3	109.1	108.1	106.8	104.2	95.1	94.0

表-6 落札価格と基準価格との関係(産地銘柄数)

	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	元年産	2年産	3年産	4年産
上限価格	5			1	7	7	6	3	3	0
基準価格を上回る	6	4	7	14	17	16	11	6	14	17
基準価格										
基準価格を下回る	18	14	18	8	1	2	7	14	7	8
下限価格以下			1	1						
計	29	28	26	24	25	25	24	23	24	25

(イ) 落札数量・不落札数量

落札状況は、第1回目が113,690トンの上場数量に対して89,020トンが落札、24,670トンが不落札、第2回目が113,470トンの上場数量に対して79,130トンが落札、34,340トンが不落札であった。

全体では227,160トンの上場数量に対して168,150トンが落札、59,010トンが不落札であっ

た。

落札残となった産地銘柄は、令和3年産の6から10に増加し、500トン以上の落札残となった産地銘柄は、昨年の北海道産「きたほなみ」、「ゆめちから」及び香川県産「さぬきの夢2009」の3産地銘柄に加え、北海道産「春よ恋」・「はるきらり」、愛知県産「ゆめあかり」

表-7 入札結果の比較

産地銘柄	上場数量 トン	基準価格 円/トン	令和3年産入札結果				(参考) 2年産入札結果計			
			落札価格 円/トン	前年産 落札価格比%	不落札 数量 トン	申込 倍率	落札 価格 円/トン	前年産 落札価格比%	不落札 数量 トン	申込 倍率
日本めん用										
きたほなみ(北海道)	128,190	55,245	49,472	90.9	36,370	0.7	54,698	85.0	45,660	0.7
農林61号(滋賀)	1,650	47,669	48,752	103.3	0	2.7	47,197	96.5	0	2.3
シロガネコムギ										
福岡	6,060	45,075	47,749	107.0	0	2.2	44,629	98.5	0	0.0
佐賀	6,990	44,015	47,001	107.9	0	2.9	43,579	100.3	0	2.9
チクゴイズミ										
福岡	5,580	42,662	43,425	102.8	10	2.1	42,240	89.3	0	2.1
佐賀	3,480	41,858	42,996	103.7	230	1.5	41,444	90.6	0	2.0
大分	1,410	40,493	42,802	106.8	260	2.2	40,092	93.9	0	1.9
さとのそら										
茨城	3,630	43,647	44,180	102.2	0	1.7	43,215	99.3	0	1.4
群馬	4,730	43,041	46,469	109.0	0	2.8	42,615	97.9	0	1.8
埼玉	4,330	41,080	43,250	106.3	0	3.2	40,673	96.0	230	2.2
岐阜	1,360	43,931	44,911	103.3	0	2.4	43,496	98.8	0	2.8
イワイノダイチ(岐阜)	1,240	42,764	45,172	106.7	0	2.3	42,341	98.4	0	2.6
つるぴかり(群馬)	1,190	49,995	50,851	102.7	0	1.5	49,500	101.1	0	2.1
あやひかり(埼玉)	1,510	42,601	45,693	108.3	0	3.3	42,179	98.8	30	2.1
さぬきの夢2009(香川)	2,110	53,540	48,006	90.9	1710	0.2	52,812	84.7	1460	0.2
シラネコムギ(宮城)	530	42,476	43,570	103.6	0	1.0	42,005	94.3	0	1.5
ふくさやか(滋賀)	1,110	41,962	45,139	108.6	0	2.4	41,547	95.0	0	2.0
きぬあかり(愛知)	5,430	43,807	47,120	108.6	0	2.5	43,373	96.1	0	2.2
パン用										
春よ恋(北海道)	11,920	74,703	68,431	92.5	620	1.1	73,963	103.5	0	4.2
ゆめちから(北海道)	26,180	56,555	50,966	91.0	17,280	0.3	55,995	85.9	7,330	0.7
はるきらり(北海道)	1,990	65,384	58,846	90.9	600	0.7	64,737	103.5	0	3.5
ゆきちから(岩手)	1080	35,863	35,621	100.3	0	2.1	35,508	90.1	110	1.0
ミナミノカオリ(福岡)	1,700	58,034	52,263	91.0	1,140	0.3	57,459	103.5	0	3.6
計	227,160	52,972	49,810	-	59,010	1.1	52,516	-	54,820	1.2

及び福岡県産「ミナミノカオリ」の計7産地銘柄となった。特に「春よ恋」を含め強力系といわれる産地銘柄の落札残が目立つ結果となっている。

(ウ) 落札価格

入札全体の結果では、全銘柄の落札加重平均価格(税抜き、49,810円/トン)は、基準価格(52,972円/トン)を6.0%下回った。

1回目の入札において、上場した25産地銘柄

柄で基準価格対比100%以上となった産地銘柄は、前年産の8から16に倍増したものの、値幅上限(+10%)に張付いたものはなかった。前年においては、強力系の3産地銘柄(「春よ恋」、「はるきらり」及び福岡県「ミナミノカオリ」)が上限に張り付いたが、4年産の入札では、当該3銘柄全てが下限近くとなり、昨年とは正反対の結果となった。また、落札加重平均価格は基準価格対比93.4%と前年産(94.9%)と同様、かなり低い水準となった。

2回目においては、基準価格対比100%を超えたのは18産地銘柄で昨年の7から大きく増加した。また、値幅上限に張り付いたのは、群馬県産「さとのそら」、愛知県産「きぬあかり」、福岡県産「シロガネコムギ」及び佐賀県産「シロガネコムギ」の4銘柄となった。落札加重平均価格は基準価格対比94.8%と前年産(95.4%)と同様、かなり低い水準となった。

入札全体(1回、2回、再入札)でみると、上場数量の約75%を占める北海道産の4銘柄の価格が大幅に低下した。前年産では、この4銘柄のうち3銘柄が値幅上限に張り付いたが、4年産では基準価格対比が、4銘柄とも下限(90%)近くとなった。全体では、合計17産地銘柄で基準価格を上回り、前年産(8銘柄)より大幅に増加した。全体の落札加重平均価格は基準価格対比で94.0%と、基準価格対比は、ここ2年大幅に低下してきている(3年産:95.1%←2年産:104.2%←元年産:106.8%)。

ここ数年、北海道産の取引価格が高水準で推移してきたことから、今回の入札では、道産麦の落札価格が大幅に下落する結果となった。一方で、府県産麦については、各産地銘柄で mismatch や落札残が見られる一方で、落札価格は堅調であったことが、4年産の入

札の特徴であった。

(5) 相対取引

相対取引は入札によって形成された指標価格を基本として行われることになっており、令和4年産については、10月22日に生産者団体から実需者に対して1次相対提示が行われ取引が開始された(2次相対提示は11月26日)。

4 生産及び品質の安定に向けて

(1) 農林水産省が昨年11月30日に公表した令和3年産小麦の作付面積については、全国で22万haと前年産より7400ha増加し、うち北海道は12万6000ha、都府県は9万4000haで、いずれも前年産より若干増加した。

(2) また、同日に公表された全国の収穫量は107万8000トとなり、前年産に比べ12万8000トの増加(+14%)となった。10a当たり収量は490kgと前年産に比べ上昇(+10%)した。北海道産は71万2600トで、前年産に比べ8万2700トン(+13%)増加した。都府県産は、36万5400トと前年産に比べ4万6800ト(+13%)増加した。

なお、昨年10月31日に同省から公表された令和3年産普通小麦の検査成績については、1等比率(10月31日現在)は84.5%と29年産以降30年産を除き、85%を超える比較的良好な水準となった。

	3年産	2年産	元年産	30年産	29年産
1等比率(%)	84.5	88.5	89.6	78.5	85.5

(3) 小麦の新品種の開発については、毎年9月に、大手製粉各社と全国の試験研究機関との間で小麦品質懇談会が開催されているが、新型コロナウイルスの影響で対面形式の会議が開催できないことなどから、昨年9月に予定さ

れていた会議は延期となった。

これまでは、例えば、北見農試において、「春よ恋」に比べて、穂発芽耐性の向上及び同等の製パン適性の確保等を念頭に、「北見春79号」などの育種が行われるとともに、秋播き小麦の「きたほなみ」に対し、縞萎縮病抵抗性の向上等を念頭に、「北見94号」などの育種が進められている。

また、米麦改良協会は、国内産麦の研究開発を支援してきており、9月に研究開発支援事業を2件採択した。この事業は、国内産麦に対する需要に応じた生産を後押しすることを目的としている。交付対象期間は5年間で、年間交付限度額は2,000万円（最大総額1億円）。具体的内容は以下のとおり。

- ①オール北海道で挑戦する穂発芽耐性と収量が向上したポスト「春よ恋」の育成。
- ②大麦需要拡大のための消費者嗜好性に優れる麦茶用等の大麦品種育成に向けた有望系統の開発。

今後は、米麦改良協会の支援事業や品質懇談会を活用しながら、実需者の評価・意見を開発サイドに着実に伝達し、需要と開発内容が的確にマッチするよう、試験研究機関と製粉企業間の連携を強化していきたい。

5 冬場の意見交換会等の開催

冬場の意見交換会は、主に円滑な流通と生産・品質の安定を目的として開催され、設定単収の確認や契約数量・収穫量を比較しながら、当該年産あるいは翌年産以降の取組について検証を行っている。令和3年度の意見交換会（小麦）は、令和4年1月中旬からWEB等も活用しつつ順次開催される予定になっている（なお、2年度の意見交換会は、WEB併用で意見交換会を実施した福岡及び佐賀以外は原則、書面開催

となった）。

6 制度関連事項

(1) 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト（令和4年度予算）

このプロジェクトは、麦・大豆の需要を捉えた生産の推進により国産シェアを拡大するため、産地の生産体制の強化等に加えて、民間保管施設の整備等により安定供給体制を確立することを目的としている。令和3年度予算でも措置されており、この予算を活用し、北海道において、生産者団体と製粉企業とのコンソーシアムにより小麦の保管施設が新設された。今後も、国内産小麦の流通円滑化に向けて、4年度予算が有効に活用されることを期待している。

なお、こうした予算措置を行いながら、農水省では、コメ需給が大幅に緩和しているため、麦・大豆への作付転換を進めているが、基本計画に掲げられている「克服すべき課題」の解消を念頭に、製粉業界が求める品質条件を満たした小麦の生産振興を図るという観点で作付転換を進めて頂きたい。

(2) みどりの食料システム戦略

SDGsの推進が世界的な趨勢となっていて、我が国の小麦の輸入先である米、加、豪の3カ国でも「サステナビリティ」(「Sustainability」)をキーワードに食料供給、環境、農業等の持続可能性の重要性が主張されている。

こうした中で、我が国においても、農水省は、持続可能な食料システムの構築に向け、昨年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進することとしている。このため、今後、小麦についても、こうした点に十分配慮して、生産振興が図られ

ることが重要であると考えている。

(3) ゲノム編集技術を利用した食品等（以下「ゲノム編集技術応用食品」）について

新たに開発されたゲノム編集技術応用食品については、厚生労働省において、令和元年10月1日から届出制度の受付が開始された（同時期、消費者庁はゲノム編集技術応用食品の表示の考え方（「Q&A」等）を公表）。その後、2年12月にゲノム編集トマト、3年9月にゲノム編集真鯛などの届出が行われ、ゲノム編集トマトについては、すでに一般販売が始まっている。

また、農研機構と岡山大などによりゲノム編集小麦が開発され、同機構は令和3年11月から隔離圃場（つくば市及び倉敷市）で栽培試験を開始している。このように、将来、商業栽培が始まる可能性が出てきていることを念頭に、その際、適切な流通が確保されるよう、小麦の生産・実需サイド及び開発者である農研機構等と緊密な意見交換を行っていく必要があると考えている。

○ 最後に

令和3年産小麦が3年連続の豊作となり、令和4年産の落札価格は、北海道産が低調となる一

方、府県産は比較的堅調となるなど、特徴ある様相を呈した。近年、小麦の需給及び価格関係が変動していることを踏まえながら、様々な環境変化の下でも円滑な取引が継続できるような民間流通の仕組みを構築する必要がある。

国際貿易・協定については、主要なもの（TPP11（CPTPP）、日EU-EPA、日米貿易協定、日英協定）は昨年までに発効し、RCEP協定も本年1月に発効した。製粉業界としては、今後の小麦粉関連製品の輸入動向などを注視しながら、対外競争力の強化に努めてまいりたい。

また、わが国における新型コロナウイルスの感染は沈静化の兆しを見せているものの、予断を許さない状況であり、小麦粉の販売も依然として低迷している。農産物の取引環境も同様である。こうした状況の下、生産関係の方々の協力の下、原料小麦を安定的に調達し、消費者の皆様へのニーズに応じた小麦粉・関連製品の安定供給に努めることが重要と考えている。このため、引き続き、関係の皆様のご協力、ご尽力をお願いしたい。

（製粉協会）
常務理事

プレミックス製造業の概要

安田 洋一

1. プレミックスの誕生

プレミックス (Pre-Mix) とはプリペアードミックス (Prepared Mix) の略語でスーパーマーケット・小売店等で販売されているホットケーキミックス、お好み焼き粉、天ぷら粉は家庭用プレミックスの代表的なものです。

日本プレミックス協会ではプレミックスを次のように定義づけています。

「プレミックスとは、ケーキ、パン、惣菜などを簡単に調理できる調製粉で、小麦粉等の粉類（澱粉を含む）に糖類、油脂、粉乳、卵粉、膨張剤、食塩、香料などを必要に応じて適正に

The infographic is a vertical timeline titled "1800年代～スレミックスの誕生" (1800s ~ Birth of Premix). It is divided into four main periods: "1800年代～スレミックスの誕生", "1800年代後期～1900年代初頭日本のスレミックスのはじまり", "1900年代中期～スレミックスの普及", and "2000年代～スレミックス業界の発展".

- 1800年代～スレミックスの誕生**
 - 1848年**: Premix (Prepared Mix or Prepared Flour) was first created in America. The first premix, a mixture of wheat flour, tartaric acid, and baking powder, was named "Self-Rising Flour" (セルフライジングフラワー).
 - 1880年代**: Pancakes, donuts, cakes, and biscuits were developed by combining wheat flour, rice flour, and soy flour with leavening agents. These were later sold as whole rice products. As manufacturing technology advanced, various premixes were developed.
- 1900年代中期～スレミックスの普及**
 - この頃の歴史的出来事**
 - 史上初の蒸気機関を走行させる (1804年/イギリス)
 - 世界初の郵便切手発行 (1840年/イギリス)
 - 【桜田門外の変】大老井伊直典弑殺される。(1860年/日本)
 - 日本で初めての文部省による博覧会開催。(1872年)
- 2000年代～スレミックス業界の発展**

配合したもの」

プレミックスの誕生は比較的新しく、1848年アメリカ合衆国で作られた「セルフライジングフラワー」がはじまりといわれています。

当初作られたものは、小麦粉に重曹と酸性剤を加えたきわめて簡単なものでした。アメリカで生まれたプレミックスはその後アメリカ国内で着実に成長していきました。

19世紀末には、小麦粉、とうもろこし粉、そば粉等と適量の膨張剤を配合したパンケーキミックスが作られ、A. Jemimaのパンケーキという名前で全米で販売されました。

その後、小麦粉に穀粉類、砂糖、粉乳、膨張剤、香料などを配合したドーナツミックス、ケーキミックス、ビスケットミックスなどが発売されました。

技術の進歩と大型販売店の出現で生産量は飛躍的に増大し、特に第二次大戦後のプレミックスの伸びは著しく、家庭用プレミックスに加えて業務用プレミックスも数多く開発されていきました。

2. わが国のプレミックスのはじまり

わが国においては、1931(昭和6)年ホットケーキの素(無糖)が初めて発売され、この商品が日本におけるプレミックスの最初であるといわれています。ホットケーキの素(加糖)、パンケーキミックス(塩味)等が発売されてから食生活の洋風化にともない、プレミックスは一般に浸透しその後製粉会社や製菓会社が生産を始めたのを契機に急速に普及しました。

この状況を背景に、日本プレミックス協会の前身である日本ケーキミックス協会が1958(昭和33)年に設立されました。ケーキミックスの普及発展を通じて国民の粉食による食生活改善向上に努めるとともに、加盟各社がその達成に

協力しあうことを目的としました。その後、1969(昭和44)年に日本プレミックス協会と名称を変更し、今にいたっています。

1957(昭和32)年頃から本格的な生産がおこなわれた家庭用プレミックスは、当初ホットケーキミックスが主力でしたが、その後1961(昭和36)年に天ぶら粉が発売されると引き続いてケーキミックス、から揚げ粉、蒸しパンミックス等が次々と開発され着実に家庭に浸透していきました。

業務用プレミックスは、アメリカの経過と同じくドーナツミックスから始まりました。1961(昭和36)年アメリカのドーナツミックス及び機械製造メーカーが日本に合併会社を設立したのを契機に、生産体制を作りドーナツミックスの製造に着手しました。1968(昭和43)年頃より業務用プレミックスの生産が急激に増えた要因は、高品質のフライ用油脂・高性能のドーナツ製造機が次々に導入されドーナツの需要が急速に高まったためです。その後、ベーカリー向け商品として、スポンジケーキミックス、デニッシュペストリーミックス、スイートルールミックス等次々と開発されました。

プレミックスの特徴である、簡便性(熟練者を要しないで常に一定した優良な製品ができる)や、経済性(原材料の配合や計量違いによる損失が少ない、人手場所が節減できる、自動機械による量産に適する)等が次第に認識され、人件費の削減という時代の要請とあいまって使用量も品種も急速に増えていきました。

3. プレミックスの種類

プレミックスは、それが使用される市場により家庭用と業務用に分けられます。家庭用はスーパー及び小売店で販売され、業務用はベーカリーや冷凍食品メーカーのような大量加工生産

1800年代～ スミックスの誕生	1800年代後期～1900年代初頭 日本のスミックスのはじまり	1900年代中期～ スミックスの普及	2000年代～ スミックス業界の発展
---------------------	------------------------------------	-----------------------	-----------------------

1800年代後期～1900年代初頭
日本のスミックスのはじまり



1880年代

日本のプレミックスの歴史は、1884(明治17)年に出版された百科全書(文部省翻訳)にパンケーキの作り方が紹介されたことから始まります。

1931年

日本で初めて無糖の「ホットケーキの素」が市販されましたが、あまり浸透しませんでした。

1950年代

加糖の「ホットケーキミックスの素」や塩味の「パンケーキミックス」が発売され、食生活の洋風化にもマッチし、一般に浸透するようになってきました。



この頃の歴史的出来事
 日本で初めて東京と横浜の間に電話が設置される。(1890年)
 ドイツの飛行船ツェペリン伯号が、霞ヶ浦飛行場に着陸。(1929年)
 エンパイア・ステート・ビル完成。(1931年/アメリカ)
 千円札(聖徳太子の肖像)発行。(1950年)

1800年代～ スミックスの誕生	1800年代後期～1900年代初頭 日本のスミックスのはじまり	1900年代中期～ スミックスの普及	2000年代～ スミックス業界の発展
---------------------	------------------------------------	-----------------------	-----------------------

のほかにレストラン、ファーストフード、ホテルなどで使用されています。

また統計資料の作成、輸入関税の適用等に利用される分類として、糖類を使用するか否かにより加糖プレミックス(ホットケーキミックス、ケーキミックス、ドーナツミックス等)と無糖プレミックス(天ぷら粉、お好み焼き粉、から揚げ粉等)に分類されます。

用途と製品のタイプにより次のように分類されます。

4. プレミックスの特徴

プレミックスの製造で重要な点は、製造設備・使用原材料・配合です。

各企業は、これをプレミックスのノウハウとしており、設備については、製粉・油脂製造業

プレミックスの種類

用途	製品のタイプ	製品名
パン類 ミックス	イースト発酵により製品を膨らませるもの	イーストドーナツミックス、菓子パンミックス、 スイートルールミックス、ペストリーミックス、 バラエティーブレッドミックス等
ケーキ類 ミックス	化学膨張剤（ベーキングパウダー）により 膨らませるもの	ホットケーキミックス、パンケーキミックス、ケ- ーキドーナツミックス、ケーキマフィンミックス、 パウンドケーキミックス、蒸しパンミックス等
	卵の起泡力により膨らませるもの	スポンジケーキミックス、エンゼルフードケ- ーキミックス等
	膨張させないもの	パイクラストミックス等
調理用 ミックス	バター（Batter）にして使用するもの	お好み焼き粉、たこ焼き粉、各種バターミッ- クス等
	ころもとして使用するもの	から揚げ粉、各種ブレッディングミックス類、 天ぷら粉等
	生地（Dough）として使用するもの	ピザミックス、餃子の皮ミックス等
Batter：粉、砂糖、卵、牛乳、パーキングパウダーなどの入った軟らかいねり生地。Doughよりは軟らかく可塑性がない。		

など他の業界で開発されている機械を導入・組み合わせることにより独自の製造ラインを構成し、プレミックスを製造しています。

これにより、従来、自家配合でしか製造できなかった品物を製品化し、益々多種・多様なプレミックスが作られるようになってきています。

プレミックスの特徴は次のとおりです。

(1) 高品質の製品

- ① 厳選された原材料
 - ② 高度の配合ノウハウ
 - ③ 特殊な製造工程
- 以上の3つの組み合わせによって生産され、更に
- ④ 厳重な品質管理を経て商品化されるので、高品質な製品を生み出すことができる。

(2) 品質の均一性

常に均一な製品を製造するため、食品衛生関連・使用原材料の受入れ・製造工程等、各種管理を厳重に実施している。

(3) 経済性

原材料の配合や計量違いによる損失が少なく、人手・場所が節減できる。また、自動機械による量産に適する。

(4) 便利性

作業性が良く、簡単な製法で高品質な製品の製造に適している。

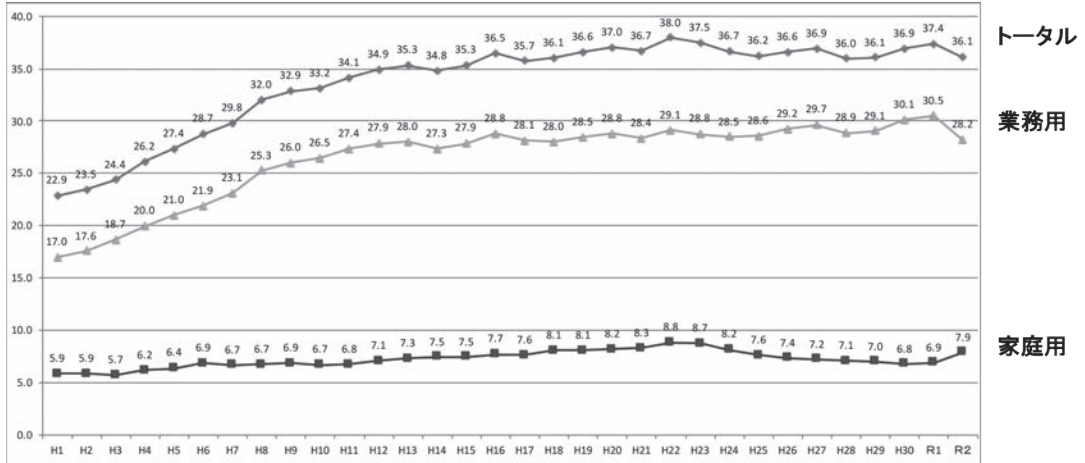
5. プレミックスの国内生産量の推移

2020（令和2）年の生産量は、36万1千トンで、その内業務用が28万2千トン、家庭用が7万9千トンです。

2020（令和2）年は新型コロナウイルスによる感染症拡大の影響で、家庭内調理の機会が増えたことなどによって、家庭用プレミックスの生産量が増加しましたが、業務用は大きく減少しました。2021（令和3）年にはいり家庭用プレミックスの需要が一巡した状況ですが、家庭内調理を楽しく簡単にするプレミックスが多数登場

プレミックス生産量の推移（平成元年から令和2年）

（単位：万トン）



（注）日本プレミックス協会調べ

しています。

平成以降、令和にかけての約30年間の生産量の推移はグラフのとおりです。

平成元年の22万9千トンから、令和2年の36万1千トンと1.57%の伸びを示しています。全プレミックスの約8割をしめる業務用プレミックスが大きく増加しました。

業務用プレミックスの伸びは、ベーカリー向けプレミックスの多品種化に加え、和風スナック商品（お好み焼き、たこ焼き、たい焼き等）がプレミックスで作られるようになったこと、ファーストフード産業がプレミックスを採用したこと、惣菜産業の増加により調理用プレミックスの需要が増大したことが要因です。

一方、家庭用プレミックスの推移は、1991（平成3）年バブル崩壊後の平成不況により内食回帰の傾向を受けて、翌1992（平成4）年頃からホットケーキミックスやから揚げ粉が伸びました。

その後、一時停滞傾向でしたが、2000（平成12）年には家庭用プレミックスの生産量が7万トン台を突破しました。

2011（平成23）年以降、各社とも多様化する

消費者ニーズに対応し、消費を刺激する商品・販促に取り組みましたが、家庭内調理の減少などから生産量は減少から横ばい傾向です。

6. プレミックスの普及事業（小学生向けクッキングコンテスト）

日本プレミックス協会では、全国の小学生4～6年生を対象にホットケーキミックスとお好み焼き粉、及び上手に焼くコツを記載したリーフレットを一緒に無償提供し、クッキングコンテストを実施しています。

本年で第9回を迎え、コンテストはプレミックスでお菓子やおやつなどが簡単においしくできることを小学生の皆さんに体験していただくことを目的にしています。

コンテストでは、工夫をこらしたすばらしい作品が数多く出品されています。応募作品の特徴は、ホットケーキ、お好み焼きをはじめパンケーキ、クッキー、クレープ、各種のパン、ピザ、蒸しパン、たこ焼き等とたいへんバラエティーに富んでいます。新しい食べ方を提案した作品や健康を重視した栄養バランスの良い作品、また調理技術も向上し、見た目もきれいで

第9回 小学生 プレミックスクッキングコンテスト

プレミックス製品（ホットケーキミックス、お好み焼き粉等）を使った、お菓子や料理を大募集！作った写真を下にはって応募してね。すてきな賞品を手に入れよう！

みんなで食べま賞 パナソニック ホットプレート
4～6年生 男女各1名ずつ **6名様**

よくできたで賞 ポタリフィールド ケーキ皿セット
4～6年生 男女各2名ずつ **12名様**

団体賞 プレミックス詰め合せ(100個入り) または 全国共通図書券20,000円分
クッキングコンテストへの応募数の多い学校様 **合計10校様**

キャンペーン期間 2021年10月25日(月)～2022年2月4日(金)

プレミックス製品(ホットケーキミックス、お好み焼き粉等)を使った、楽しくておいしさあふれる料理やお菓子の写真と作り方を大募集！
各賞に選ばれた上位18名様+10校様に、プレミックスにちなんだ素敵なプレゼントを差し上げます。プレミックスを使用して、楽しくておいしい料理をどんどんご応募ください！

とてもおいしそうなお作品がたくさんあります。
だれでも簡単に作ることができるホットケーキミックスやお好み焼き粉等を使うコンテストを今後も続けていき、プレミックスファンを着実に増やしていきたいと考えています。

7. 日本プレミックス協会の会員
現在、協会加盟の会員各社は以下のとおり13社となっています。

令和4年1月現在

奥本製粉株式会社 熊本製粉株式会社 株式会社サンミックス 昭和産業株式会社 千葉製粉株式会社 鳥越製粉株式会社 株式会社日清製粉ウェルナ	日清製粉プレミックス株式会社 日東富士製粉株式会社 株式会社ニップン 三菱商事ライフサイエンス株式会社 森永製菓株式会社 理研農産化工株式会社
--	--

(日本プレミックス協会)
常務理事

児童生徒等のパンに対するニーズに関する アンケート調査結果について

阿 部 勲

学校パン給食推進協議会・パン食普及協議会は、令和3年8月、児童生徒の朝食・昼食・夕食におけるパンをはじめとした主食の喫食状況、パンに対する嗜好等について、インターネットを通じて調査しました。調査は、全国の小中学生を持つ親4,120人（5ブロック各824人）を対象とし、親が同居する子ども（小中学生）に確認しながら一緒に回答する方法で実施しました。全国の集計値については、各地域の人口比を勘案して算出しています（調査委託先：マクロミル（株））。

加えて、パン食普及協議会は、上記調査とは別に、令和3年11月、16歳以上の男女約2,198人を対象として、最近1年間におけるパンの喫食状況、パンに対する嗜好等について、インターネットを通じて調査しました（調査委託先：マクロミル（株））。

今回の調査は基礎的なデータを把握したものではありませんが、その結果については、パン関係者だけでなく小麦粉関係者の方々の今後のPR等の取組の参考になると思われますので、以下紹介します。なお、今後さらに、パン等についての喫食、嗜好等に係るより詳細な調査の実施を検討していく必要があると思われます。

1 普段のパンの喫食状況について

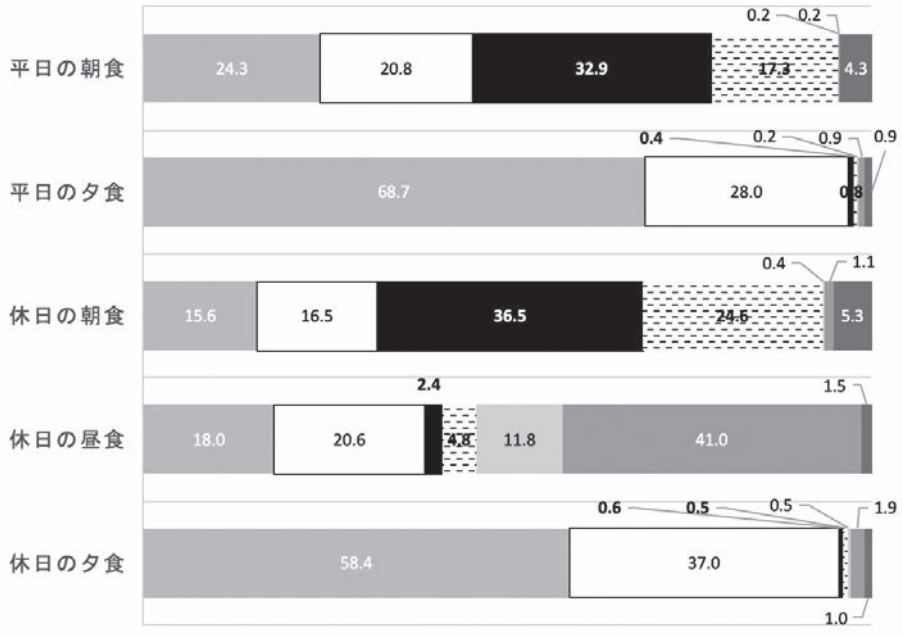
(1) 児童生徒

<設問>お子様の、以下のふだんのお食事の内容として、最もあてはまるものをお答えください。

平日の朝食では、「ほぼパンである」が32.9%、「パンが多い」が17.3%、これら計が50.2%となっています。また、休日の朝食では、さらにパンが多く、「ほぼパンである」が36.5%、「パンが多い」が24.6%、これら計が61.1%となっています。

一方、昼食（休日）では、めん、ご飯が多く、「ほぼパンである」が2.4%、「パンが多い」が4.8%、これら計が7.2%と少なくなっています。また、夕食については、平日、休日とも、ご飯が非常に多く、「ほぼパンである」、「パンが多い」は非常に少なくなっています。

- ほぼご飯である □ ご飯が多い ■ ほぼパンである
- パンが多い ■ ほぼめんである ■ めんが多い
- その他



(単位：%)

	ほぼご飯である	ご飯が多い	ほぼパンである	パンが多い	ほぼめんである	めんが多い	その他
平日の朝食	24.3	20.8	32.9	17.3	0.2	0.2	4.3
平日の夕食	68.7	28.0	0.8	0.4	0.2	0.9	0.9
休日の朝食	15.6	16.5	36.5	24.6	0.4	1.1	5.3
休日の昼食	18.0	20.6	2.4	4.8	11.8	41.0	1.5
休日の夕食	58.4	37.0	0.6	0.5	0.5	1.9	1.0

(学年層・地域別にみた「ほぼパンである」
 +「パンが多い」の回答割合(%))

パンの喫食が多い朝食でみると、学年層別では、低学年ほど「ほぼパンである」、「パンが多い」が多く(小学生低学年：平日57.5%、休日66.7%)、高学年になるにつれて、これらの割合が少なくなっています(中学生：平日47.1%、

休日56.5%)。

また、同じく朝食でみると、地域別では、近畿東海北陸が「ほぼパンである」、「パンが多い」が多く(平日56.5%、休日66.1%)、北海道・東北でこれらの割合が少なくなっています(平日38.2%、休日50.1%)。

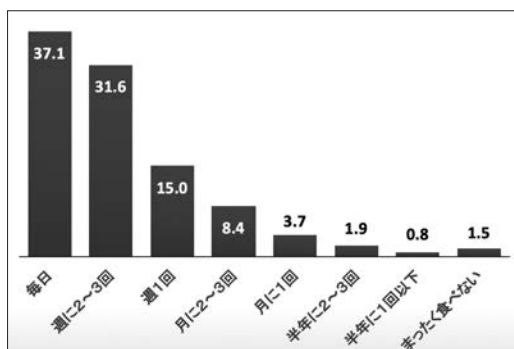
	平日の朝食	平日の夕食	休日の朝食	休日の昼食	休日の夕食
小学生低学年 (全 国)	57.5	1.7	66.8	7.7	0.9
小学生中学年 (全 国)	53.5	0.8	63.3	7.0	0.8
小学生高学年 (全 国)	51.1	1.9	61.6	7.4	1.1
中学生 (全 国)	47.1	1.0	56.4	6.7	1.0
北海道・ 東 北	38.2	0.9	50.1	9.5	0.9
関東甲信越静・ 東京都	52.6	1.9	60.3	7.6	0.7
近畿東海 北 陸	56.4	0.7	66.0	6.1	1.0
中 国 四 国	52.5	1.0	64.6	5.6	2.1
九 州	48.2	1.7	60.7	6.8	0.9

北海道・東北	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東甲信越静・東京都	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県
近畿東海北陸	富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(2) 16歳以上

<設問>あなたは、ここ1年ほどの間、パンをどのくらいの頻度で食べていますか。

パンを食べる頻度については、全体では、「毎日」が37.1%、「週に2～3回」が31.6%で、これらを合わせると68.7%となっています。



(単位：%)

(性・年齢層別にみたパンを食べる頻度の割合 (%))

性別にみると、女性の方が男性より「毎日」が総じて多く、「週2～3回」以下は男女であ

り差がありません。

年齢別には、男女とも、年齢層が高いほど「毎日」が多く、年齢層が低いほど「週2～3回」、「週1回」等が多くなっています。

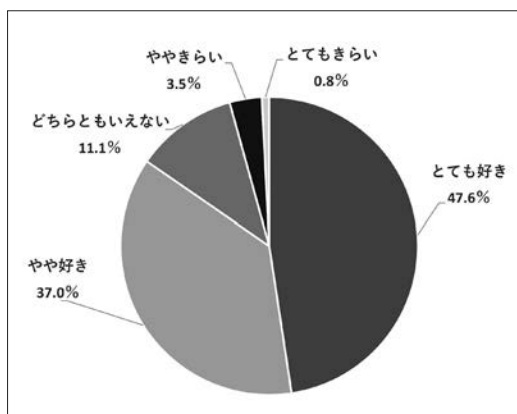
	毎日	週に2～3回	週1回	月に2～3回	月に1回	半年に2～3回	半年に1回	全く食べない
男性	32.8	32.7	15.9	8.3	4.5	2.7	1.1	2.0
(16～19歳)	16.9	41.0	18.1	10.8	6.0	4.8	1.2	1.2
(20～29歳)	12.0	33.5	22.2	14.4	6.6	4.2	2.4	4.8
(30～39歳)	21.4	31.5	20.2	11.3	7.1	3.0	1.2	4.2
(40～49歳)	32.5	32.5	19.5	7.7	3.0	3.6	0.0	1.2
(50～59歳)	29.6	36.7	17.2	7.1	5.3	3.0	0.0	1.2
(60～69歳)	39.0	37.8	8.7	7.6	2.3	2.3	1.2	1.2
(70歳以上)	54.2	24.4	10.1	4.2	3.6	0.6	1.8	1.2
女性	41.1	30.6	14.2	8.4	2.9	1.1	0.5	1.1
(16～19歳)	17.9	34.5	23.8	16.7	4.8	2.4	0.0	0.0
(20～29歳)	25.3	25.3	20.0	17.6	5.3	2.9	1.2	2.4
(30～39歳)	33.1	32.5	17.8	11.8	3.0	0.6	0.6	0.6
(40～49歳)	30.0	38.2	16.5	10.0	2.9	1.8	0.0	0.6
(50～59歳)	41.4	36.7	11.2	4.7	1.8	1.2	0.6	2.4
(60～69歳)	45.9	30.6	12.4	5.9	2.4	0.0	1.8	1.2
(70歳以上)	58.8	23.5	10.0	4.1	2.4	0.6	0.0	0.6

2 パンに対する嗜好について

(1) 児童生徒

<設問> お子様は、パンが好きですか。

全体では、パンが「とても好き」が47.6%、「やや好き」が37.0%で、これら「好き」計で84.6%となっています。



(学年層・地域別にみた「パンが好き」等の回答割合(%))

学年層別にみると、低学年層で「パンが好き」が多くなっています(88.8%)が、中学生でも

多くなっています(81.6%)。

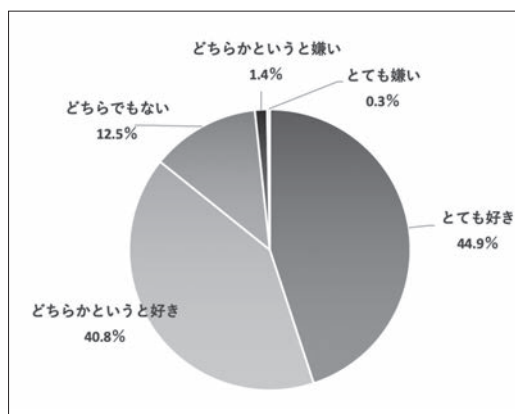
地域別には「好き」計に大きな差はなく、85%前後となっています。

	好き計	(とても好き)	(やや好き)	どちらともいえない
小学生低学年 (全国)	88.8	58.8	30.0	8.4
小学生中学年 (全国)	86.7	50.9	35.8	9.2
小学生高学年 (全国)	83.2	43.3	39.9	10.9
中学生 (全国)	81.6	41.3	40.3	14.3
北海道・東北	85.0	46.6	38.4	10.9
関東甲信越静・東京都	86.2	50.1	36.1	9.7
近畿東海北陸	83.4	46.3	37.2	12.5
中国 四国	82.8	44.9	37.8	12.3
九州	83.3	45.3	38.0	12.2

(2) 16歳以上

＜設問＞あなたは、パンが好きですか。

全体では、パンが「とても好き」が44.9%、「やや好き」が40.8%で、これら「好き」計で84.9%となっています。この数値は、児童生徒とほぼ同じになっています。



(性・年齢別にみた「パンが好き」等の回答割合 (%))

年齢別にみると、男女とも、総じて高年齢になるほど多くなっています。

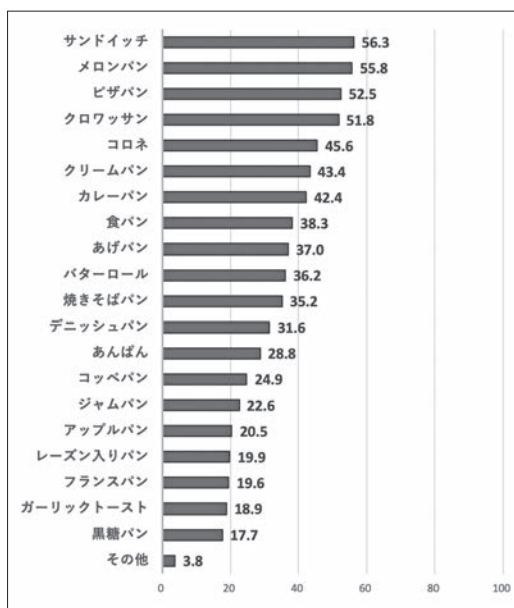
性別にみると、女性の方が男性より「パンが好き」が総じて多くなっています。

	好き計	(とても好き)	(どちらかという好き)	どちらでもない
男性	81.5	34.2	47.3	16.0
(16～19歳)	79.5	32.5	47.0	19.3
(20～29歳)	79.0	34.1	44.9	15.0
(30～39歳)	76.8	36.9	39.9	20.2
(40～49歳)	81.1	35.5	45.6	16.0
(50～59歳)	81.7	38.5	43.2	14.8
(60～69歳)	83.1	35.5	47.7	16.3
(70歳以上)	85.7	28.0	57.7	13.7
女性	89.6	54.9	34.7	9.3
(16～19歳)	84.5	54.8	29.8	15.5
(20～29歳)	85.9	57.1	28.8	11.8
(30～39歳)	93.5	59.8	33.7	4.7
(40～49歳)	93.5	60.6	32.9	5.9
(50～59歳)	91.1	61.5	29.6	8.9
(60～69歳)	92.4	50.6	41.8	6.5
(70歳以上)	85.9	47.6	38.2	12.9

3 パンの種類別嗜好（児童生徒）

＜設問＞ お子様は、どんなパンが好きですか（いくつでも）。

サンドイッチ、メロンパン、ピザパン、クロワッサン、コロネ、クリームパン、カレーパンが「好き」の上位を占め、食パン、あげパン等が続いています。



(単位：%)

(学年層・地域別にみた「好きなパン」等の回答割合 (%))

学年層、地域別にみても、順位、割合等多少

の違いがありますが、大体同じ種類のパンが「好きなパン」の上位を占めています。

	1位	2位	3位	4位	5位
小学生低学年 (全 国)	メロンパン (53.9)	クロワッサン (51.9)	サンドイッチ (50.2)	ピザパン (49.1)	クリームパン (46.3)
小学生中学年 (全 国)	メロンパン (57.8)	サンドイッチ (56.0)	ピザパン (52.2)	クロワッサン (48.4)	コロネ (46.5)
小学生高学年 (全 国)	メロンパン (56.4)	サンドイッチ (55.4)	ピザパン (52.7)	クロワッサン (51.4)	カレーパン (46.8)
中学生 (全 国)	サンドイッチ (60.3)	クロワッサン (57.4)	ピザパン (55.2)	メロンパン (54.1)	カレーパン (50.1)
北海道・ 東 北	サンドイッチ (56.9)	クロワッサン (54.0)	ピザパン (52.0)	コロネ (48.4)	クリームパン (43.9)
関東甲信越静・ 東京都	サンドイッチ (54.4)	メロンパン (53.8)	クロワッサン (52.2)	ピザパン (51.0)	コロネ (49.3)
近畿東海 北 陸	メロンパン (56.5)	サンドイッチ (55.8)	クロワッサン (55.6)	ピザパン (54.9)	カレーパン (42.1)
中 国 四 国	サンドイッチ (59.5)	メロンパン (56.1)	ピザパン (55.6)	クロワッサン (50.5)	クリームパン (44.6)
九 州	サンドイッチ (58.7)	メロンパン (57.2)	ピザパン (51.1)	コロネ (50.4)	クロワッサン (49.7)

(パン食普及協議会事務局
(一社)日本パン工業会専務理事)

—その50—

ウズベキスタン

★他国に囲まれた内陸国。小麦は増産への努力 中で、不足分を輸入

ウズベキスタン共和国は中央アジアに位置し、カザフスタン、トルクメニスタン、アフガニスタン、タジキスタン、キルギスに囲まれている。2か国以上を越えないと大海に出ることができない「二重内陸国」とも言われる。1991年12月迄はソビエト連邦の構成国だったが、その後、CIS(独立国家共同体)の一員になった。国土面積は日本の約1.2倍、人口は3,350万人(2020年：国連人口基金)で、首都はキルギスとの国境に近いタシケントである。ウズベク系の民族が8割以上を占めており、言語もウズベク語だが、ロシア語も広く使われている。宗教はイスラム教スンニ派である。

国家経済の約40%を農業分野が担っていた時期もあったが、ソビエト連邦の構成国の時代に穀物の生産技術があまり進歩しなかったため、独立時(1991年12月)には穀物全体の生産量が年に100万t弱に過ぎなかった。その後、この遅れを取り戻すべく、政府が灌漑、技術改良、育種などに力を注いだ結果、穀物の総生産量は約800万tにまで増えた。中でも主要作物である小麦は、生産量が年に600~700万tになったが、食用に適さない低品質のものも多いため、食用需要の不足分の約300万tを主としてカザフスタンから輸入している。政府は、引き続き小麦の自給自足を目指して様々な施策を行っている。

★農産物の加工設備がぜい弱だったので、政府 は特に製粉能力増強に努めた

独立当時は、農産物を加工する設備の多くがロシアなど旧ソビエト連邦諸国から輸入された古くて、効率が悪いものだったので、生産される農産物の約2割しか加工できない状態であり、多種類の製品を輸入に依存しなければならなかった。そういう状況を打開するため、政府は国営のUzdonmahsulot社に多額の投資をして、ドイツ製の製造設備による製パン工場をいくつか建設させるなど、食品加工業の能力向上に努めた。また、食品製造業への外国からの投資を歓迎し、税制面の優遇措置や外貨の本国への持ち出しへの便宜供与をするなどの措置も講じた。

小麦粉の生産統計は公表されていないので詳細は分からないが、かつては小規模な製粉工場が多くて、総製粉能力は低かったと思われる。一方で、国内産小麦を挽いた粉は製パン性があまり良くなく、消費者が望む品質のパンをつくれなかったため、ベーカリーの多くがカザフスタンで製粉された小麦粉を好んで使用したため、需要のかなりの部分を輸入に依存していた。

IGCの統計によると、2011/12年度頃には年に約200万tもの小麦粉を輸入していた。2015年には、前述のUzdonmahsulot社が製粉工場(小規模な工場が多かったと思われる)を48も持ち、市場でのシェアが高い状態だったが、小麦粉生産量を増やす努力をしていた。加えて、それ以外の会社の製粉工場も増えて、製粉能力が増強

されていったので、2015/16年度には小麦粉輸入量が130万tに減った。さらに、その後の新規参入会社の増加や製粉工場の新・増設ブームによって輸入量が2018/19年度は66万t、2019/20年度は50万tと、激減していった。

★最近は、製粉工場の新設、増設ラッシュ

前述のように、2015年頃から現在まで、製粉工場の建設ラッシュが続いている。2015年にはDonmahsulotplast社が首都タシケント近郊に建設していた最新鋭のコンパクト工場（日産能力150t）が完成した。2018年には、Nice Land製粉のタシケント工場（250t）が稼働し、高級パン用粉を国内とアフガニスタンに出荷し始めた。2019年には小麦粉販売シェア35%のBeshear Biznes社が日産能力1,000t（2ライン）工場の建設を開始した。2020年にはSamarkand Don Maxsulotlari社の第2工場（200t）が稼働し、Namangan Don Maxsulotlari社も既存の古い工場を撤去して自動化新工場（250t）に衣替えした。Admiral Groupは2018年に日産能力200tの工場を建設したのに続き、2021年中の稼働を目指して750tの新工場を建設中で、カザフスタンからの輸入小麦で高品質小麦粉の製造を予定している。O'zdonmahsulot AKグループは58の製粉工場（小規模な工場が多いと思われる）を持つが、タシケントのDon Mahsulotlari工場（2ライン、合計700t）は古く、非効率なので、2ライン（各250t）の自動化新工場に衣替えした。この工場では地元産の小麦を挽いている。

★パンとめんがウズベキスタン料理の中心

農業国で、昔から小麦の生産が盛んだったので、食事ではパンとめんが重要な位置を占めている。パンは平焼きパンが多く、それらの総称はナン（non）とか、パティール（patyr）と呼ばれる。食べやすい大きさの円形のやや厚めの平

らなパンだが、中央を少しくぼませて飾りが付けられている。その面を上にして何枚か重ねて食卓に出される。

地域によってナンの種類も様々で、最もポピュラーな主食であるアビ・ナン（obi non）はタンディールという窯で焼く。同じアビ・ナンでもサマルカンド地方では小さめの厚みがあるシルマ・ナンが多く食べられている。ブハラ地方のナンはゴマやニオイクロタネソウの種を表面に散らしたもので、香ばしい風味がする。首都タシケントで食べられているラチラ（lochira）は牛乳、バター、砂糖などを入れた生地を焼いた皿型のアビ・ナンである。

めん料理のナリンやラグマンはスープや主菜として食卓に上る。ヒヴァ（ホラズム地方）の伝統料理シュヴィット・オシュは、夏によく食べられる料理。デイルなどのハーブが練り込まれた緑色のめん、めんの上にトマトベースのソースをのせ、ヨーグルトやサワークリームを添えて食べる。酸味があって、さっぱりした味は、暑さで食欲が落ちても食べやすい工夫されている。

.....

2008年1月号に掲載を始めた「製粉と小麦粉のお国ぶり」は今回で50回になりました。その間、世界の主要国について製粉や小麦粉関連の状況をご紹介しますが、そろそろ主な国々を巡り終えましたので、筆を擱かせていただきたく存じます。ご愛読いただき、有難うございました。

振り返りますと、最初の頃にご紹介した国の中には、状況が大きく変わっている部分もありますので、それらの国々の中からいくつかの状況を「製粉と小麦粉のお国ぶり：その後」として引き続きお届けしたいと考えています。これからもよろしく願いいたします。

（一般財団法人製粉振興会 参与、農学博士 長尾 精一）

あったか冬のめん

ひらの あさか

そうめんのはじまりは

奈良の三輪は、そうめん発祥の地といわれています。その起源は1200年以上前、日本最古の神社、三輪山の大神神社で疫病と飢饉に苦しむ人々の救済を祈願したところ、神のお告げにより、三輪の肥沃な地に小麦をまいて、とれた小麦を水車で粉に挽き、小麦粉にして保存食となるものをつくり、土地の生業として成り立たせたという。挽いた小麦粉に湧き水を加えてこね、延ばして糸状にしたものが、そうめんのはじまりといわれています。

その後、三輪そうめんの製法は現在の兵庫県播州、香川県の小豆島、長崎県の島原へと伝わり、日本を代表する伝統的なめんとなりました。

ちなみに大神神社では毎年2月に、その年のそうめん相場を占う神事「卜定祭（ほくじょうさい）」が行われているそうです。

あたたかい「にゅうめん」

最もポピュラーなそうめんの食べ方は、夏の「冷やしそうめん」ですが、「にゅうめん」はおもに関西以西では年間を通じて食べられているものです。

あたたかい汁の中にそうめんを入れて食べる意味の「入麺」は、室町後期頃からその呼び名があるようですが、ほかにも煮ためんを表わす「煮麺」なども登場します。いずれにせよ、そのくらい古くからあるのが「にゅうめん」なのです。

「沢煮風にゅうめん」豚肉ロース肉、ごぼう、にんじんはせん切りにする。鍋にかつおだしを沸騰させて野菜と豚肉を入れて火を通し、しょうゆ、みりんを加える。そうめんは短めにさっとゆでて、水に放ち水気をよくきって、具材の入った汁に加えて沸騰直前に火を止めて器に移して、好みで粗びきこしょうをふる。

「桜えびのにゅうめん」乾燥桜えびは小鍋で軽くいっておく。市販の白だしに水を加えて沸騰させ、ねぎの斜め切りをさっと煮る。そうめんは短めにさっとゆでて、水に放ち水気をよくきって、汁と合わせて火を軽く通す。器によそい、桜えびをふりかけて、好みで揚げ玉、小口切りにした青ねぎをちらす。

「稲庭うどん」であったかめんを

350年以上の歴史がある「稲庭うどん」は、江戸

時代の初期に現在の秋田、稲庭地区小沢に住んでいた佐藤市兵衛が、地元産の小麦粉を使ってうどんを製造したのが始まりといわれています。

「鶏とせり、ごぼうのあったか稲庭うどん」鶏もも肉はひと口大に切り、ごぼうは斜めのさがきに切り、せりは4cmくらいに切る。たっぷりの湯を沸騰させ、稲庭うどんをゆで、めんが乳白透明になったら、ざるに上げ、水でよくのみ洗いしてぬめりを取り、水気をしっかりときる。鍋にかつおだし、みりん、しょうゆを合わせて煮立て、鶏肉とごぼうを煮て火が通ったら、稲庭うどん、せりを入れてさっと煮る。器に移して好みで粉山椒をふる。

「まごうどんの卵とじ」まごうどんとは、稲庭うどんの切れ端なのですが、離乳食から介護食まで幅広く食べやすいうどんとして重宝されているものです。まごうどんは、たっぷりの湯で乳白透明になるまでゆでて、水でよく洗い、水気をきっておく。鍋にかつおだし、みりん、うすくちしょうゆを合わせて煮立て、まごうどんを入れて、溶き卵を加えて小口切りにした青ねぎをちらす。

韓国の「ククス」

韓国の「ククス」とは、「カルグクス」やそばなど、めん料理の総称ですが、そうめん、太めの手打ちめんを使っためん料理のことをあらわします。日本でいえば煮干しのような片口いわしのだしを使ったスープで仕上げる「ミョルチククス」、コチュジャンだれで和えた辛口混ぜそうめんの「ビビククス」などがあります。

「カルグクス」は、小麦粉生地をベースにした手打ちめんを使ったあたたかいめん料理です。韓国語で「カル」とは包丁のこと、「ククス」はめんを意味します。包丁でめんを切ることからその名があるともいわれています。スープはあっさりとして辛くないので、子どもや辛い物が苦手な人でも食べやすい、味わい深いめん料理です。

「チャンチククス」チャンチとは祝宴のこと。結婚式などお祝いの席に出されるめんのことです。片口いわしをベースとしたスープにゆでたそうめん、錦糸卵、のり、ねぎなどをのせたものです。細長いめんのように、細く長くしあわせに暮らせますようにと願いを込めためんだといわれています。

「あさりのカルグクス」だし汁をつくる。煮干しは頭とわたを取って昆布と一緒に鍋に入れて30分くらいおいて弱火で煮はじめ、ふつふつしてきたら昆布を取り出して、アクを取り、さらに煮て、キッチンペーパーなどでこす。わかめはもどして水気を取り、食べやすく切る。長ねぎは白髪ねぎにしておく。生しいたけは軸を切って細切りにする。冷凍細うどんは耐熱容器に入れて電子レンジで加熱する。だし汁に砂ぬきあさりを入れて中火でふたをしてあさりが開くまで煮て、あさりをいったん取り出す。しょうゆと酒を加えて汁を煮て、わかめ、細うどんを入れて軽く煮て、あさりをもどして白髪ねぎとひと煮立ちさせ仕上げ、器に移し、好みで糸唐辛子をのせる。

(食文家)

製粉産業をめぐる2021年10大ニュース

(1月編集委員会選定)

- ☆COVID-19(新型コロナウイルス)感染拡大が続き、緊急事態宣言が再び発出。外食・観光業界をはじめ食品関連の多方面で需要が大幅に減少するなど大きな影響を受けた。
- ☆世界的な食料需要の高まり、原油価格・穀物相場の高騰、海上運賃の上昇や円安等を背景に、輸入小麦の政府売渡価格が4月期(+5.5%)、10月期(+19.0%)と2回連続の引上げ。10月期は、現行の算定方式となった2007年以降では、過去2番目の上昇率となった。
- ☆世界が異常気象に見舞われた1年。北米主要小麦産地にて数十年振りの深刻な干ばつが発生。低単収により減産となった。
- ☆9月、中国、台湾が相次ぎTPP11への加盟を申請。参加には全加盟国の同意が必要であり加盟に向けた駆け引きが続く。
- ☆RCEP(東アジア地域包括的経済連携)は11月に発効要件を満たし、2022年1月に10か国で発効予定。小麦を含む重要5品目は関税削減・撤廃の対象から除外されている。
- ☆5月に農林水産省において、「みどりの食料システム戦略」を策定。2030年までに食品製造業の労働生産性3割以上向上、事業系食品ロスの半減等を目指す姿が示された。
- ☆7月、農林水産省の組織再編により、新たに「輸出・国際局」、「農産局」、「畜産局」が発足。「農産局」は麦、米、大豆など園芸作物を一体で担当する。
- ☆令和3年産国内産小麦は、天候にめぐまれて順調に生育し、令和元、2年産に引き続き豊作(108万トン、対前年+14%)となった。
- ☆令和4年産国内産小麦の入札結果は、申込倍率1.1倍と前年(1.2倍)を若干下回る結果。落札価格の基準価格比は94.0%と前年(95.1%)を更に下回った。また落札残が59千トン発生するなど、国内産小麦の需要の伸び悩みと近年の作況を反映する結果となった。
- ☆国内でゲノム編集技術を使って品種改良した食品の実用化が進む。小麦については農研機構と岡山大共同で穂発芽耐性のあるゲノム編集品種が開発され、試験圃場での栽培が始まっている。

(順不同)

業界ニュース

お知らせ

★製粉講習会の開催について

(一財)製粉振興会主催の令和3(第56)事業年度製粉講習会を以下により開催します。各製粉企業(工場)に近々申込要領をお知らせし、2月上旬から聴講申込を開始する予定です。

本年は、ポストコロナを見据えて奮闘する海外の製粉業界・企業等の動向、及びSDGsの時代を迎えた食料・食品産業のあるべき姿等について有識者の講演を聴講いただきます。奮っての申込をお待ちしております。

今回の製粉講習会は、昨年度と同様、東京会場での開催で、聴講ご希望の方は①会場参加(定員あり)または②オンライン配信(Zoomウェビナー利用)により聴講いただけます。1月下旬頃各製粉企業(工場)及び関係団体に送付する申込要領に沿って、企業(工場)ごとに希望者を取りまとめの上、原則として弊会ホームページよりオンラインでの聴講申込をお願いします。

会場参加につきましては、新型コロナウイルス感染防止の観点から定員を設けており、希望者多数の場合は調整をお願いする場合があります。また、参加者には感染防止へのご協力をお願いします。

なお、今後の新型コロナウイルス感染者数の動向等によっては、オンライン配信のみによる開催への変更、会の延期(または中止)もあり得ますことを予めご承知おき下さい。

I 会場参加(定員60名を予定)

開催地	開催日時	会場	講師・演題	
			午前	午後
			10:40~12:00	13:00~14:20
東京	令和4年3月22日(火) (10:00~開場) 10時40分~ 14時20分	フラクシア丸の内オアゾ C会議室 (丸の内北口ビル15階) 東京都千代田区丸の内1-6-5	「コロナ禍後を見据えた海外の製粉及び関連業界・企業の動向と戦略」 (一財)製粉振興会 参与 長尾精一 氏	「SDGs時代の食料・食品産業」 東京農業大学 (農生命科学研究所) 特命教授 末松広行 氏

(注)参加者には、昼食時(12:00~13:00)に弊会で弁当を用意します。

II オンライン参加

Iの講演をZoomウェビナーを用いてオンライン配信いたしますので、各自のPC等により視聴下さい。参加者には事前に参加のためのURLをメールにてご連絡します。また、講演資料は弊会の専用ページより各自でダウンロードいただけます。講演中、参加者側のカメラ、マイク等を使用する必要はありません。

〈講師プロフィール〉(講演順)

長尾精一氏

(一財)製粉振興会参与 農学博士 一級パン製造技能士

1959年日清製粉株式会社入社。本社試験課長、製粉業務部次長、中央研究所穀物科学研究室長、食品研究所長、製粉研究所長、製粉分析センター所長、理事等要職を歴任し、退任後製粉協会理事 製粉研究所長、ICC(国際穀物科学技術協会)日本代表、AACCIInternational日本支部長等を経て現職。

AACCIInternationalからブラベンダー賞、ゲディス記念賞、フェロー賞、日本調理科学会から功労賞、日本穀物科学研究会から功労賞を受賞。

小麦粉に関して国内外で共著書、論文、講演など多数。

末松広行氏

東京農業大学特命教授(農生命科学研究所)、東京大学客員教授(未来ビジョンセンター)、日本フードデリバリーサービス協会代表理事、三井住友海上顧問等、博士(経営学)

1983年農林水産省入省、食糧庁(需給課・企画課)、国土庁、長崎県諫早市、水産庁国際課などを経て、2002年総理大臣官邸内閣参事官、その後環境政策課長、食料安全保障課長、政策課長、林野庁林政部長、関東農政局長、農村振興局長、経済産業省産業技術環境局長を経て2018年7月に農林水産事務次官、2020年8月に退官。著書に、「食料自給率のなぜ?」(扶桑社新書)、「解説食品リサイクル法」などがある。

業界ニュース

★2021年産アメリカ小麦作柄報告会開催される

米国小麦連合会（USWA）主催の2021年産小麦作柄報告会が11月22日にオンラインで開催された。今年は、予め録画された日本語字幕付きの映像を視聴する形式で行われた。

冒頭、USWAダレン・バジェット会長から挨拶映像の後、USWA副社長西海岸事務所ステーブ・ワーシング所長、小麦マーケティングセンター技術担当ディレクター ジェイン・ボック博士、モンタナ州小麦大麦委員会キャシディ・マーン上級副社長、パデュー大学教授食品科学部長シェナイ・シムセック博士、USWA副社長海外技術担当マーク・フォーラー、HJ O'Neil Commodity Consulting社ジェイ・オニール社長らのプレゼンテーション録画映像を視聴した。

<需給関係>

2021/2022の世界の小麦生産量は、干ばつの影響でアメリカ、カナダ、ロシアで減産が見込まれる一方で、EU、アルゼンチン、ウクライナなどの増産により776百万トン、消費量は生産量を上回る787百万トンとなり、いずれも過去最高が見込まれる。その結果期末在庫は277百万トンと減少が予想される。非輸出国である中国の数値を除いて計算すると、消費量に対する在庫率は21.4%（前年23.1%）となる。更に黒海沿岸諸国を含む主要輸出国の現在の在庫率は13%（前年15%）で、これは世界で輸出可能な小麦がひっ迫し、小麦価格が高騰した2007/2008シーズンの状況に類似している。

米国では、厳しい干ばつの影響で、生産量が前年の49.8百万トンから、44.8百万トンと10%減少した。国内消費は、飼料用途が増加し31.6百万トンと前年から僅かに増加し、輸出力は前年から12%減少の23.8百万トンを見込んでい

る。期末在庫は前年より31%減少し、15.8百万トンと過去10年間で最低の水準となる見込みである。

<春小麦（HRS）>

作付面積は対前年比で6%減少し、生産量は深刻な干ばつの影響もあり8.1百万トンで前年の14.4百万トンより43%減少した。西海岸に搬送される西部生産地域では、全般的に厳しい干ばつの影響を受けた。土壌の水分レベルが低いことから作付けが遅れ、生育初期段階の出芽も悪く、6月から7月の登熟期には厳しい高温と乾燥に見舞われ、作付けされた小麦の12%が収穫放棄や干し草にされるといふ、非常に過酷な栽培環境であった。

品質面では、前年に比べ、硝子率は84%（前年82%）とやや上昇し、5年平均を上回った。水分値は、10.8%（前年11.1%）とやや低下した。容積重はやや低下し、千粒重も低下した。蛋白値は15.8%（前年14.4%）とかなり上昇し、フォーリングナンバーは同等で健全性を示した。テストミル粉では、ファリノ吸水はやや減少し、ピークタイムとスタビリティが長くなり、アミロ粘度は上昇した。製パン試験では吸水は低下し、パン容積もやや低下したものの、内層の食感のスコアは同等であった。（品質面の情報は西部生産地域のHRSについてのものである。）

<冬小麦（HRW）>

全体として、作付面積は非常に少なかった前年に比べ9.7%増加し、生産量は20.4百万トン（前年17.9百万トン）に増加した。一方で、西海岸に搬送される冬小麦の産地では、干ばつの影響で前年に比べ収量が少なく、高蛋白で小麦粒は小さくなった。そこで、西海岸向けに必要な小麦を確保するために、集荷地域を従来の地域（ワシントン州、オレゴン州、アイダホ州、モ

業界ニュース

ンタナ州、ワイオミング州、サウスダコタ州、ネブラスカ州の一部)に加えコロラド州、ネブラスカ州、カンザス州西部に広げることとした。

品質面では、前年に比べ、水分値は10.2% (前年10.8%) とやや低く、蛋白値は13.2% (前年12.3%) と高く、灰分値は同等であった。また、容積重とフォーリングナンバーは、前年と同等であったが、千粒重は28.2g(前年33.7g) とかなり減少した。テストミル粉のファリノ吸水はやや減少し、スタビリティーは長くなった。また、アミロ粘度は減少した。製パン性については、吸水がやや増加し、パン容積も増加しており、良好である。(品質面の情報は、西海岸に搬送される従来の冬小麦の産地のもので、新たに加わったコロラド州、ネブラスカ州、カンザス州のHRWの情報は含まない。)

<白小麦(ソフト・ホワイト、ホワイト・クラブ)>

生産状況は、冬期の低水分、春から夏にかけての極度な乾燥と熱波の影響で収量が減少し、主要3州(ワシントン州、オレゴン州、アイダホ州)の生産量は1966年以来最も少ない4.3百万トン(前年7.2百万トン)に留まった。

品質面では、干ばつの影響で、前年に比べ容積重及び千粒重が低下し、水分値も、ソフトホワイト8.8% (前年9.2%)、ホワイトクラブ8.0% (前年8.5%) と低下した。蛋白値は、ソフトホワイト11.3% (前年9.8%)、ホワイトクラブ11.5% (前年9.8%) で、かなり上昇した。スポンジケーキ試験では、ソフトホワイト、ホワイトクラブともに前年より体積が減少し、食感が硬く全体評点も低くなった。

*蛋白値は水分12%ベース

★2021年産カナダ小麦アジア新穀ウェブセミナー開催される

カナダ穀物協会(Cereals Canada)主催の

2021年産アジア新穀ウェブセミナーが11月25日に開催された。このセミナーは、アジア向けに開催されたもので、日本をはじめ、中国、韓国などから200名以上が視聴した。

セミナーはカナダ穀物協会ネメス氏の進行のもと、まずカナダ小麦協会ディーン・ディアス最高経営責任者の挨拶とカナダにおける農業技術改良や品種開発、先日ブリティッシュ・コロンビア州で発生した洪水の復旧状況についての説明があり、次いで小麦生産農家の高品質小麦生産に対する取り組みの紹介映像を視聴した。その後、2021年の市場動向、2021年産小麦の栽培状況、作柄、各銘柄の小麦の品質についての日本語同時通訳付きのプレゼンテーションが行われた。

<需給および作柄について>

2021/2022シーズンの世界の小麦生産量、消費量はいずれも過去最高が見込まれ、消費量が生産量を上回ることから、期末在庫は減少が予想される。また世界のデュラム小麦の生産量は、前年比8.2%減少し31.0百万トンと、過去20年間で最も少なくなる見込みである。一方、消費量は前年比2.6%減少するものの33.3百万トンと生産量を上回り、期末在庫は6.0百万トン(前年比-26.9%)、主要輸出国(カナダ、EU、メキシコ、アメリカ)の期末在庫は2.2百万トン(前年比-44.4%)と非常にタイトな需給状況になると予想される。

カナダの小麦の生産状況は、西海岸に搬送される西部生産地域では、干ばつの影響が深刻であった。冬期の降水量が少なかったことから、播種時は土壤水分が少なかったものの、4月の降雨で初期の生育は順調に推移した。しかし、その後は降水が少なく高温も加わり、6月から8月にかけて小麦の生育にとってストレスのかかる環境となった。このような状況で小麦の成熟

業界ニュース

が早まり、収穫が加速され、反収は大きく減少した。その結果、デュラム小麦を除く小麦の生産量は18.2百万トン（過去5年平均比-31.5%）、デュラム小麦の生産量は3.5百万トン（過去5年平均比-46.1%）となった。

<春小麦 (CWRS) >

CWRSの格付けはNo.1が66%、No.2を合わせると90%となった。No.1CWRSの品質は、前年に比べ、容積重と千粒重が減少し、フォーリングナンバーは300秒を超えており問題はなかった。蛋白値は15.3%（前年13.2%）と上昇した。中種法による製パン試験では、吸水は同等であったが、ミキシング時間が長くなり、比容積は

増加したものの、内層のすだちにやや粗さが認められた。

<デュラム小麦 (CWAD) >

デュラム小麦の格付けは、No.1が39%、No.2と合わせて70%となった。No.1CWADの品質は、前年に比べ、容積重と千粒重が減少し、硝子率も減少した。蛋白値は15.8%（前年14.1%）と上昇した。スパゲッティ試験では、前年に比べ茹で麺の硬さが増加していたが、明度と黄色みはやや減少していた。

*蛋白値は水分13.5%ベース

【東京・明石】



業界ニュース

YouTube『製粉振興会コナちゃんねる』がスタートしました！

弊会では、従来より小中学生を対象として、「毎日小学生新聞」や月刊誌「Newsがわかる」を活用した小麦粉に関する知識の普及活動を実施してまいりましたが、この度、新たな取組として、YouTubeを活用して小麦粉を使った料理を楽しく作り、小麦粉の豆知識も得られる動画を配信する「製粉振興会 コナちゃんねる」を開設し、昨年12月15日より、「食べて学ぼう！コナちゃん食育研究所」第1弾「皮から作る餃子」篇の配信を開始しました。

今後、今年度中に更に3作を配信する予定としておりますので、皆様方にはぜひご視聴とチャンネル登録をお願いします。

「みんなの小麦粉研究所」が動画になって帰ってきたよ!!

YouTubeで
『食べて学ぼう!コナちゃん食育研究所』
配信開始!

今まで「NEWSがわかる」で掲載していた『みんなの小麦粉研究所』が、YouTubeで『食べて学ぼう!コナちゃん食育研究所』として動画を配信するよ。今までより、もっと小麦粉について楽しく学びながら、おうちで簡単に作れる「小麦粉料理」の作り方を紹介してるよ。いつでも観れるから、お父さんやお母さんと一緒に作ってみてね!

第1回目は、みんな大好きな「皮から作る餃子」篇だよ。こねたり、まぜたりしながら、餃子の皮から作るよ。また、小麦粉の種類についても紹介しているので、ぜひみんな観てね。

- 簡単に作れる小麦粉料理のレシピをご紹介
- 小麦粉パワーの秘密も楽しく学べる
- 小麦粉についてのクイズもあるよ

キミもさっそく観てみよう!
作ってみよう!

YouTube

チャンネル登録
よろしくね!



世界 (1) 2021/22年度の小麦はカナダ、アメリカ、ロシアが減産だが、生産量(7.77億t)、消費

量(7.82億t)、貿易量(1.96億t)共に史上最高と予測。主要輸出国の期末在庫量はさらに減少して5,340万tだが、中国は前年度並みの1.28億t。

前年度比で生産量は0.5%増、消費量も1.4%増。生産量はカナダが38.4%減の2,170万t、アメリカも10.0%減の4,480万t、ロシアも12.2%減の7,500万t、カザフスタンも16.1%減の1,200万tで、トルコも9.7%の減産である。一方で、ヨーロッパはかなり回復し、ウクライナ、アルゼンチン、モロッコなども増産と見込まれ、中国は2.1%増の1億3,710万t、インドも1.5%増の1億950万tと予測される。消費は食用、飼料用共に増え、コロナ禍でも食用消費は堅調である。価格上昇にもかかわらず、貿易量は500万t(2.6%)増。イランの輸入量が前年度の200万tから680万tに急増する。輸出国側では、オーストラリアの輸出が大きく増えて2,430万tの見込み。ウクライナはこれまでの最高の2,450万tを予想しているが、政府や貿易業者の話し合いの結果次第で2,530万tに増える可能性もある。ロシアも3,410万tと予想しているが変わる可能性もある。インドは過去8年間で最高の500万t(前年度350万t)と予想した。期末在庫は410万t減の2.743億tだが、主要8輸出国計は660万t減の見込み。消費量が増えたので、在庫率(消費量に対する

在庫量の比率)は最近8年間で最低になる[表1~3]。

(IGC-GMR・527/21)

(2) 2022/23年度の小麦収穫面積は前年度比0.4%減の2.26億haか。

アメリカとカナダは干ばつからの回復を見込んで増えるが、中国、インド、オーストラリアは少し減少する。EUとロシアはほぼ前年度並みと予想[表4]。

(IGC-GMR・527/21)

(3) 小麦粉生産量は、先進国では横這いや下降傾向の国が多いが、途上国の中には増加傾向の国が見られる。

[表5]は2019年までの国別小麦粉生産量の推移である。中国、インド、イラン、エジプトなど統計がない国もあるが、おおよその傾向は読み取れる。主要国の傾向を見ると、アメリカは人口が増えているのに、ほぼ横ばいで推移しているが、カナダは増加傾向である。ロシアとウクライナは減少傾向が顕著で、イギリス、ドイツ、イタリアはほぼ横ばい、フランスはやや減り気味である。輸出に力を入れているトルコは高水準を維持している。インドネシアの伸びが顕著だが、他のアジア諸国では顕著な傾向は認められない。アフリカでは、ケニア、南アフリカ、スーダンなどで増加している。ニュージーランドも横ばいである

(IGC-World Grain Statistics 2020)

(4) 2021/22年度の小麦粉貿易量(小麦換算)はコロナ禍の影響があった前年度比9%増の1,470万tで、ほぼ平年並みと予想される。

2020/21年度は近年にない低貿易量の1,350万tだった。2021/22年度はコンテナ不足や輸送

費高騰が少し軽減されると思われるものの、最近の平年並みに戻るのが精いっぱいと言われている。イラクが国産小麦減産によって270万t(83万t増)輸入すると予想されるが、主要輸出国であるトルコ(37万t増の490万t)の供給力次第という面もある。第2の輸入国はアフガニスタンで、49万t減の200万tの予想だが、主要輸出国のカザフスタン(国産小麦の収穫量減により19万t減の215万t)の供給力に依存する[表6]。

(IGC-GMR・526/21)

(5) 2021年11月のFAO穀物価格指数は前年同月比23.2%上昇。

国連食糧農業機関(FAO)の穀物価格指数は平均で前月比3.1%上昇して141.5になり、前年同月比は23.2%高かった。高品質小麦の需給ひっ迫で小麦価格が2011年5月以来の高値になったため。

(World-Grain.com・12/3/21)

(6) コロナ禍後を見据えて途上国で製粉工場の新・増設が盛ん。

コロナ禍を経験した製粉産業は、世界的流行下で食料安全の重要性を認識し、今後の小麦粉需要増を見据えて、工場の能力拡張や新設を開始した。特に、途上国を中心に盛んである。2021年中頃に完成したものの中から、いくつかを紹介する。①Golchha製粉(インド)は日産能力275tの工場を400tに拡張した。②Molinos Miraflores社(エクアドル)は工場を新設し、国内市場向けに高品質のパン用粉とケーキ用粉を製造する。③Soci t  des Moulins Modernes du Togo社(トーゴ)は日産能力250tの製粉工場を新設し、78%歩留りの小麦粉の製造を開始した。④Cascavel農業協同組合(ブラジル)は日産480tの製粉工場に200tラインを増設した。

(World-Grain.com・10/21, 11/1/21)

(7) 国際製粉技術者協会は多様性・公平・包含(DEI)を重要事項と位置づけ。

2021年9月に開催された125回大会で、新会長のGarvert氏はDiversity(多様性)、Equity(公平)、Inclusion(包含)について述べた。ジェンダーの問題一つをとっても、一部の企業を除いて、これらに関する意識が低く、ほとんど対応が行われていないとも言えるという。DEIを企業経営の重要事項と位置づけて、努力する必要性を強調した。

(World-Grain.com・10/11/21)

(8) 気候変動で小麦は増産？

IIASA(国際応用システム分析研究所)、NASA(アメリカ合衆国航空宇宙局)、PIK(ポツダム気候影響研究所)の研究者達が参加した新しい国際研究によると、今後、温度上昇、降雨パターンの変化、人間による温室効果ガス排出が原因の地表二酸化炭素濃度の上昇によって、小麦の生産量は約17%増えるが、トウモロコシは24%減少するという。小麦の場合、これまで生産できなかった北米大陸北部、中国大陸北部、中央アジア、オーストラリア南部、アフリカ東部などでも、温度上昇によって生産可能になる可能性がある。しかし、これによる生産量増も今世紀半ばには横這いになると予想した。

(World-Grain.com・11/1/21)



アメリカ (1) 2021年産小麦は干ばつの影響でHRS小麦の生産量が大幅減。SW小麦も減産。

小麦全体では作付面積は増えたが、乾燥気候の影響で、収量が過去5年間の最低になり、生

産量は前年度産比10%減の4,480万tと少なかった。特に、HRS小麦は主産地のノースダコタとモンタナ両州の大幅減産で、生産量は非常に少ない808万tに留まった。容積重が低めで、千粒重も低く、粒が小さめと思われ、製粉歩留が例年より低い。水分も低めである。生地性状の試験データから、グルテンが硬めと思われ、製パン試験でも吸水が低く、パン体積も小さめである。太平洋岸向けと思われる産地のHRW小麦も干ばつの影響を受け、容積重が低めで、千粒重も低く、粒が小さめと思われ、製粉歩留が例年より低めである。水分は低い。グルテンは強めであり、パンの吸水は高めで、パン体積も大きめのようなのである。PNW 3州のSoft White小麦も干ばつの影響を受け、生産量が大幅減の430万t(前年度は720万t)で、クラブ小麦は20万t(前年度は30万t)と少ない。容積重は高いが、SW小麦の千粒重が低く、粒が小さめかと思われ、製粉歩留が例年より低い。アミロ粘度は正常だが、スポンジケーキ体積が小さめである[表7~11]。

(USWA 2021 Crop Quality Report, USDA)

(2) 北米製粉協会の年次大会でアメリカ製パン協会会長が講演。製パン業界のコロナ禍での状況と今後について述べ、協力を要請。

大会はフロリダ州Boca Ratonのホテルで開催された。製パン協会Mackie会長によると、コロナ禍の初期にはパンの需要は旺盛だったが、労働力不足と供給チェーンの混乱で生産を維持するのが大変だった。労働者はウイルスにさらされる危険に神経質になり、政府から支援金をもらえたこともあって、職場復帰が遅れた。テレワークによって自宅で仕事をする消費者が多い一方で、製パンや他の食品業界の労働者は休みが取れないほどの忙しさだった。自宅勤務

の増加はサンドイッチ店や朝食店での需要を激減させた一方で、朝食用パンなどの商品の売れ行きは好調だった。誕生日パーティのような祝いごととも少人数で行うようになり、ケーキの注文も減った。過去18か月以上の間、工場の稼働率を出来るだけ上げるよう努めながら、利益率が高い製品を中心に、消費者が求める種類の製品を提供するようになってきた。次の6~8か月は前例のない新製品の動きが予想され、eコマースの普及で新製品開発に新しい波が押し寄せる。高付加価値製品を消費者に買ってもらうかどうかは鍵である。製粉業界が製パン業界の努力を支援して欲しいと結んだ。

(World-Grain.com・10/11/21)

(3) 北米製粉協会が合衆国農務省に気候対応農業に関して提言。

合衆国農務省は現在企画中の「気候対応農林業共同プログラム」に関して、北米製粉協会の意見を求めてきた。これに対し、2021年11月1日に、プログラムの透明性が重要で、製粉業者と生産者が共に検討中の内容の説明を受け、話し合う機会を作って欲しいと提言した。北米製粉協会会員会社は政府が今後出してくる持続性政策で小麦の生産をどう扱うかに重大な関心があり、このプログラム作成過程で意見を述べたいという意向が強い。

(World-Grain.com・10/13, 11/5/21)

(4) Grain Craft社のイノベーション・品質研究所がカンザス州Manhattanのカンザス小麦イノベーションセンター内に完成。

2020年9月、同州Wichitaからの移設を発表し、建設を進めてきた本研究所は、製粉会社の基本的な試験、研究機能の他に、小麦と粉の品質及び粉安定性の改良を目的とした機能も備えてい

る。小麦、粉、及び二次加工の部屋があり、日常試験、新麦品質評価、小麦品種改良のための選抜試験、及び研究活動を行い、小麦新品種開発、土壌保全状態管理、及び粉の機能性研究も行う。小麦の育種研究者、生産者、及び農業普及員とも密接に連携し、長期的な品質と収量の改良に協力する。この研究所が入っている小麦イノベーションセンターは2012年に小麦新品種開発促進を目的に設立され、研究棟、温室、事務所棟がある。

(World-Grain.com・10/5/21)

(5) ADM社は先進の再生可能エネルギー源など8つの傾向に注目。

同社は、過去18か月間、猛威を振るった新型コロナウイルスの世界的流行で見えてきた事柄として、先進の再生可能エネルギー源、植物ベースのライフスタイル、クリーンで透明な原材料調達、持続可能な製品など8項目を、現在及び今後の世界的成長を加速する傾向だととらえている。それらの一つとして、消費者は健康で環境に優しいライフスタイルを行うために、機能性で、健康に良い、植物ベースの栄養に注目するようになる。2035年には植物性の代替蛋白質が全蛋白質の11%になると予想した。また、消費者はマイクロバイオーム（微生物叢に含まれる遺伝子物質）の重要性を認識するようになるという。

(World-Grain.com・10/20/21)

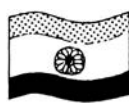


イギリス 小麦粉価格が再び上昇。EU離脱とコロナ禍が原因か。

1970年代以降、小麦粉価格は上昇し続けている。1.5 kg当たりの価格は、当時、0.12ポンド（以下、£）[0.17米ドル（以下、US\$）]だったが、2011年には異常気象の影響で

小麦在庫が激減し、£1.34 (US\$1.85) に跳ね上がった。2014年に下がり始め、2015年にはほぼ£0.90 (US\$1.24) になり、その後、£0.68 (US\$0.94) 前後で落ち着いていたが、新型コロナウイルス流行で再び£0.74 (US\$1.02) に上昇した。コロナ禍が収まっていた時点では、£0.59 (US\$0.82) に落ち着いていた。コロナ禍で国内の運転手が不足して輸送コストが上昇していることも、小麦粉価格を押し上げている。EU離脱による影響は大きく、カナダやアメリカの小麦を配合して製パン性を高めてきたイギリス産の小麦粉には、EU加盟国に輸出する際に関税が課せられるので、輸出量が激減した。また、アイルランドはかなりの量の小麦粉をイギリスから買っていたので、どうなるかも問題である。

(MG・132-10/21)



インド 2021/22年度の小麦輸出量は500万tか。

アメリカ農務省の予測では、国内の食用消費量は増えているが、生産量が増え、在庫も十分あるので、500万t輸出すると見ている。輸出先はネパール、スリランカ、バングラデシュ、インドネシア、及び中東とアフリカ諸国と予想される。

(World-Grain.com・11/5/21)



エジプト (1) 2022/23年度の小麦買付価格を決定。

2021年11月11日発表。品質（純度）に応じて、800~820エジプトポンド/150kg(339~349米ドル/t)に。

(IGC-GMR・527/21)

(2) 小麦増産を図るが、需要増に追いつけず輸入増。410以上の製粉工場が補助金付きパン用小麦粉を製造。

人口増とイラク、シリア、リビア、イエメン、及びスーダンから推定約500万人の難民を受け入れていることも加わり、小麦の輸入量は増加している。IGCによると、2021/22年度の小麦生産量は前年度と同量の890万t、輸入量は前年度比40万t増の1,280万tで、政府は輸入量の増加を抑えるべく、高収量新品種の導入と生産者への技術指導に力を入れている。パン補助金制度を続けており、対象者は伝統的なbaladiパンを1個0.05エジプトポンド(0.01米ドル)で毎月150個まで買える。政府はパン1個当たり0.60エジプトポンドを製パン業者に補填しているが、対象者に現金支給する方式に変えようとしている。製粉業界には410以上の公営、公営と民間企業の合弁、及び民間企業があり、公営工場と公営と民間企業の合弁工場は補助金付きパン用に82%歩留りの小麦粉を製造しており、その量は補助金付きパン用小麦粉全体の70%で、残り30%を民間企業が製造する。約3万の製パン業者が1日に2.5~2.7億個の補助金付きパンを製造している。小麦はロシア(756万t)とウクライナ(190万t)からの輸入が主で、EUとオーストラリアからも輸入。2019/20年度にはGeneral Authority for Supply Commodities(GASC)が輸入小麦の49.4%に相当する633万tを輸入した。

(World-Grain.com・10/12/21)

(3) 伝統食の米に代わってパスタの消費が拡大。

国民食とも言えるkoshari(kusharyとも書く)にはパスタが必須の材料である。最近、政府が灌漑で多量の水を必要とする米から小麦の生産への移行を奨励し、併せて、低所得者が「スマートカード」で国内産のパスタ製品を25%割引

で買えるようにしたことも加わり、パスタの消費拡大を後押ししている。ライフスタイルの変化と簡便な製品の需要拡大も影響している。特に、都会生活の若い世代はペンネ、フジッリ、及びスパゲティが簡単に調理でき、各種のソースや添え料理とも合うので好んで食べている。1人当たりの年間パスタ消費量は約7kgになった。パスタの調理法や食べ方は地域ごとに異なるが、アラブ、ヨーロッパ、インドの影響なども受けながら育ってきた国民食のkoshariの人気は不変で、その調理にはパーミセリやマカロニが必須材料である。エジプト人は外食が好きだが、価格が最も重要な購買要因で、街頭で安いパスタ製品を買って食べるが多く、レストランも低利益で安い料理を出す必要がある。この傾向は製粉にも及んでおり、ほとんどの製粉会社が国産及び輸入(黒海沿岸地区、アメリカ、オーストラリアから)の普通小麦を混ぜて、1種類の小麦粉を製造し、製パンとパスタ製造の両方に販売している。そのため、二次加工性が必ずしも適切ではないので、Mühlenchemie社などから購入した酵素製剤を添加して加工することが多い。

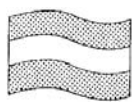
(World-Grain.com・10/27/21)



オーストラリア 干ばつによる被害を受けたにもかかわらず、過去5年間の穀物産業の総収入は上昇。

Grain Growers社の調査によると、穀物生産量は8%減少したが、総収入の過去5年平均年間伸び率は1%で、12.9億オーストラリアドルになった。過去5年平均で、国全体の農業総収入の22%に貢献し、第2の農産業である。豆類が生産量で20%、収入で71%増加したことが穀物産業の総収入増に貢献した。

(World-Grain.com・10/19/21)



オーストリア 2021年産普通小麦の生産量は前年産比8.4%減の144.5万t。蛋白は高め。

小麦はトウモロコシに次ぐ重要な穀物だが、干ばつの影響が続いており、作付面積が1.5%減で、収量も8.2%減。Pannon地区産は蛋白が高めで、この国の小麦としてはパン体積もほぼ平年並みか [表12]。

(MM・158-19/21)



カナダ 2021年産小麦は平原全体が干ばつの影響を受け、近年にない大減産。高蛋白で、平年とは性状が少し違うか。

デュラムを除く小麦の生産量は前年産比36%減の1,817万tで、そのうち約64%がCWRSに格付けされた模様。1CWは例年より少ないと思われる。1CWの平均蛋白は14.8%と高く（前年産は13.4%）、グルテンは硬めのようなので、加工性には注意が必要か。平均灰分は低めである。デュラム小麦は46%減の355万t。容積重が低く、蛋白が非常に高い。パスタの明度と黄みが低そうである [表13~16]。

(Canadian Grain Commission, Statistics Canada)



韓国 小麦輸入量が増加の見込み。

合衆国農務省によると、通常の年でも少ない国内産小麦は雨害の影響を受けて、収量が前年度比19%減、生産量は僅か22,406tの見込みである。一方、消費量は前年度比12%増の390万tなので、2021/22年度の輸入量は12%増の430万t（製粉用280万t、飼料用150万t）と予想されるが、飼料用は価格次第である。安い小麦粉を使う小規模な食堂やめん製造業者の需要が減ったので、2020/21年度の小麦粉輸入量は前年度比12%減の16,272t

（小麦換算）に留まった。

(World-Grain.com・11/8/21)



中国 (1) 2022年の小麦買上最低保障価格を2%引上げ。

2,300元 (357米ドル)/tに。

(IGC-GMR・526/21)

(2) 2022年の穀物低関税輸入枠は前年並み。

2021年9月26日発表。前年並みの小麦960万t、トウモロコシ720万t、米530万t。小麦の90%は国有会社に割当の予定。

(IGC-GMR・526/21)



ドイツ 2021年産小麦は干ばつ傾向で減産。蛋白は高め。

総生産量は過去5年平均比9.1%減、前年比3.6%減の2,137万tで、生産量の大半を占める冬小麦は2,099万t。蛋白は高めだが、パンの体積は小さめで、干ばつ傾向を反映していると思われる。品種構成はE(特選)グループが2%増の11.7%、A(高品質)グループが2.4%減の50.5%。EU域内の他の国からの品種が3.1%増えて13.9%に。AグループのRGT Reform が前年の20.4%から16.4%に減ったが1位、2位のInformer(Bグループ)が3.7%から5.6%に増。その他には量的に多い品種がない [表17、18]。

(MM・158-20/21)



ナイジェリア Crown製粉と親会社のOlam International社（シンガポール）は小麦増産に向けて

の10年計画を実施。

耐熱性新品種の開発と農作業の改善を目指して、少なくとも10の農協婦人部を活用するという。

(World-Grain.com・10/28/21)



ブラジル (1) 政府が遺伝子組換え小麦粉の輸入を承認。

2021年11月11日に承認したが、その小麦を生産するアルゼンチンのバイオテクノロジー会社、Bioceres社は直ぐには市販化しない、他の輸出先の承認も得る努力をするという。ブラジル製粉協会(Abitrigo)は大統領府に対し、この決定を再検討するための生物安全保障委員会の招集を要請する予定。同協会はすでに、遺伝子組換え小麦の輸入を政府が承認した場合には、アルゼンチン小麦の輸入を止め、他の輸出国に切替えると明言している。

(IGC-GMR・527/21, World-Grain.com・11/12/21)

(2) Marataグループが製粉に参入。最初の工場をSergipeに建設。

食品、アグリビジネス、包装材料など幅広く事業を展開し、売れている消費者ブランドのベスト10に入っている同グループは、製粉業に参入することを決め、最初の工場(日産能力600t)を建設する。建設はAlapala社が担当する。

(World-Grain.com・11/5/21)



ベトナム 最恵国からの小麦の輸入関税(3%)をゼロに。

2021年12月30日から。

(IGC-GMR・527/21)



メキシコ Grupo Trimex(最大手製粉会社)がBunge社の7つの製粉工場を買収し、シェア拡大。

Grupo Trimexは1995年にメキシコシティにあった4つの製粉工場を買収して創業し、2014

年にはGruma社の4つの製粉工場を買収するなど、過去20年間に多くの製粉工場を買収してきた。今回の買収で20工場になり、さらにシェアを拡大する。Bunge社はコアビジネスに集中し、ポートフォリオ最適化を図るが、ブラジルの7つの製粉工場は当面操業を続ける。

(World-Grain.com・10/15/21)



モロッコ 小麦の輸入関税を一時停止。

2021年11月1日発表。現在の135%をゼロに。

(IGC-GMR・527/21)



ロシア (1) 新規小麦輸出先としてアルジェリアを開拓。

Demetra社(国内第2の銀行VTB傘下)が2021年10月に6万t輸出した。過去5年で初めての大量輸出である。アルジェリアは年に約700万tの小麦を輸入しており、2020/21年度の輸入量は世界第5位。通常はフランス、ドイツ、ラトビア、リトアニア、アルゼンチンから輸入しているが、最近、品質規格が緩められたことで、ロシアの輸出が可能になった。

(World-Grain.com・10/20/21)

(2) 小麦の輸出関税引上げや輸出割当を導入か。

世界の小麦価格が高騰し、国内の食料価格は過去5年来の高値になっている。このことを考慮し、国内に十分な小麦を供給するため、2022年前半に輸出関税の引上げや輸出割当を行うことを検討している。

(World-Grain.com・11/11/21)

[表1] 世界及び主要小麦輸出国の小麦需給

(百万t)

国名 ()内は穀物年度	期初 在庫	生産	輸入 b)	供給計	消費				輸出 b)	期末 在庫
					食用	工業用	飼料用	計 a)		
アルゼンチン (12月/11月)										
2019/20	1.5	19.8	0.0	21.3	4.9	0.1	0.2	5.8	13.8	1.7
2020/21 推定	1.7	17.6	0.0	19.3	5.2	0.1	0.2	6.1	11.0	2.2
2021/22 予測	2.2	19.9	0.0	22.1	5.2	0.1	0.2	6.1	13.5	2.5
オーストラリア (10月/9月)										
2019/20	5.2	14.5	0.9	20.5	2.2	0.4	4.9	8.3	9.1	3.0
2020/21 推定	3.0	33.3	0.4	36.7	2.4	0.5	5.4	9.1	23.5	4.2
2021/22 予測	4.2	32.0	0.4	36.6	2.4	0.5	5.0	8.7	23.5	4.4
カナダ (8月/7月)										
2019/20	6.0	32.7	0.7	39.3	3.0	1.0	4.2	9.3	24.5	5.5
2020/21 推定	5.5	35.2	0.6	41.3	3.3	1.0	3.9	9.2	26.4	5.7
2021/22 予測	5.7	21.7	0.7	28.1	3.0	1.0	2.5	7.6	17.0	3.5
EU(7月/6月) c)										
2019/20	13.6	155.0	5.5	174.0	54.3	11.1	49.0	121.6	38.6	13.9
2020/21 推定	11.5	124.5	6.1	142.1	47.5	9.2	38.5	102.3	30.1	9.7
2021/22 予測	9.7	138.0	4.9	152.5	47.5	9.6	41.5	105.1	34.8	12.6
カザフスタン (7月/6月)										
2019/20	1.6	11.5	0.5	13.6	2.4	0.0	1.4	6.3	6.7	0.6
2020/21 推定	0.6	14.3	0.6	15.4	2.5	0.0	1.4	6.5	8.1	0.9
2021/22 予測	0.9	12.0	0.8	13.6	2.5	0.0	1.2	5.7	7.0	0.9
ロシア (7月/6月)										
2019/20	10.0	73.6	0.3	83.8	13.6	1.7	17.4	40.7	34.2	9.0
2020/21 推定	9.0	85.4	0.2	94.6	14.0	1.7	19.0	43.4	38.4	12.8
2021/22 予測	12.8	75.0	0.2	88.0	14.0	1.6	17.3	41.7	34.1	12.2
ウクライナ (7月/6月)										
2019/20	1.5	29.2	0.1	30.8	5.1	0.1	2.2	8.5	21.1	1.2
2020/21 推定	1.2	25.4	0.1	26.7	5.1	0.1	1.9	8.2	16.9	1.6
2021/22 予測	1.6	33.0	0.1	34.7	5.0	0.2	2.4	8.6	24.5	1.5
アメリカ (6月/5月)										
2019/20	29.4	52.6	3.1	85.0	25.8	0.4	2.8	30.6	26.4	28.0
2020/21 推定	28.0	49.8	2.7	80.5	25.9	0.4	2.6	30.7	26.8	23.0
2021/22 予測	23.0	44.8	3.4	71.2	25.7	0.4	3.7	31.7	23.8	15.8
主要輸出国 計 d)										
2019/20	68.8	388.7	10.9	468.3	111.4	14.7	82.1	231.0	174.4	62.9
2020/21 推定	60.5	385.4	10.7	456.6	105.8	13.0	72.9	215.5	181.1	60.0
2021/22 予測	60.0	376.4	10.4	446.8	105.3	13.4	73.8	215.2	178.3	53.4
中国 (7月/6月)										
2019/20	119.8	133.6	6.8	260.2	93.0	6.5	18.0	129.1	1.2	129.9
2020/21 推定	129.9	134.3	11.0	275.2	94.0	6.8	34.0	145.9	0.9	128.3
2021/22 予測	128.3	137.1	10.6	276.0	95.0	7.0	33.4	146.5	1.3	128.3
インド (4月/3月)										
2019/20	17.0	103.6	0.4	121.0	86.2	0.2	4.0	96.4	0.3	24.3
2020/21 推定	24.3	107.9	0.1	132.3	88.6	0.2	6.3	102.5	2.4	27.4
2021/22 予測	27.4	109.5	0.1	137.0	91.0	0.2	7.0	105.4	4.5	27.1
世界計										
2019/20	259.6	761.3	185.4	1,020.9	523.7	24.5	136.1	745.3	185.4	275.6
2020/21 推定	275.6	773.4	190.7	1,049.0	532.8	23.3	150.1	770.6	190.7	278.4
2021/22 予測	278.4	777.4	195.7	1,055.8	540.8	24.1	153.9	781.5	195.7	274.3
世界計 (中国を除く)										
2019/20	139.8	627.7	178.6	768.7	430.7	18.0	118.1	616.2	184.2	145.7
2020/21 推定	145.7	639.1	179.7	785.7	438.7	16.5	116.1	624.7	189.8	150.1
2021/22 予測	150.1	640.4	185.1	791.7	445.8	17.1	120.6	635.1	194.4	146.0

a) 種子用および廃棄分を含む、b) 製粉製品の推定輸出入量を含む、c) EUは、2019/20年度が28か国、2020/21年度以降は27か国、d) IGC 7月/6月データ (2021年11月18日現在) (IGC)

[表2] 世界の小麦生産量

(百万t)

地区・国名		18/19	19/20	20/21 (推定)	21/22 (予測)	
ヨーロッパ	EU*	ブルガリア	5.8	6.1	4.6	7.1
		チェコ	4.4	4.8	4.9	4.9
		デンマーク	2.6	4.7	4.1	3.9
		フランス	35.8	41.1	30.4	36.8
		ドイツ	20.3	23.0	21.9	21.4
		ハンガリー	5.2	5.3	5.0	5.2
		ギリシャ	1.0	1.1	0.8	0.9
		イタリア	6.9	6.5	6.5	6.7
		ポーランド	9.7	10.8	12.0	12.2
		ルーマニア	10.1	9.9	6.4	11.3
		スロバキア	2.1	1.9	2.1	2.0
		スペイン	8.0	5.8	7.9	8.3
		スウェーデン	1.6	3.4	3.2	3.1
		その他	24.2	30.5	14.8	14.3
		計	137.7	155.0	124.5	138.0
	セルビア	2.9	2.5	2.9	3.3	
	イギリス	13.6	16.3	9.7	14.0	
	その他	1.4	1.7	1.7	1.8	
	計	142.1	159.2	138.7	157.1	
CIS	カザフスタン	13.9	11.5	14.3	12.0	
	ロシア	71.7	73.6	85.4	75.0	
	ウクライナ	25.1	29.2	25.4	33.0	
	その他	13.3	15.6	14.3	15.5	
	計	124.0	129.9	139.4	135.5	
北中米	カナダ	32.4	32.7	35.2	21.7	
	メキシコ	2.9	3.2	2.9	3.0	
	アメリカ	51.3	52.6	49.8	44.8	
	その他	T	T	T	T	
	計	86.6	88.5	87.8	69.5	
南米	アルゼンチン	19.5	19.8	17.6	19.9	
	ブラジル	5.4	5.2	6.2	8.0	
	チリ	1.4	1.3	1.4	1.5	
	ウルグアイ	0.7	0.8	0.9	0.9	
	その他	1.8	1.6	1.5	1.9	
	計	28.8	28.6	27.6	32.2	

地区・国名		18/19	19/20	20/21 (推定)	21/22 (予測)	
近東アジア	イラン	14.5	14.5	14.5	11.5	
	イラク	3.0	4.8	5.4	4.4	
	サウジアラビア	0.5	0.5	0.7	0.7	
	シリア	1.2	3.1	2.8	2.8	
	トルコ	20.0	19.0	19.5	17.6	
	その他	0.3	0.3	0.4	0.4	
	計	39.6	42.3	43.3	37.4	
極東アジア	太平洋アジア	中国	131.4	133.6	134.3	137.1
		その他	1.4	1.7	1.6	1.5
		計	132.9	135.3	135.9	138.6
	南アジア	アフガニスタン	3.6	4.9	5.0	4.5
		インド	99.7	103.6	107.9	109.5
		パキスタン	25.1	24.3	24.9	27.0
		その他	3.1	3.4	3.5	3.4
	計	131.5	136.3	141.3	144.4	
	計	264.4	271.5	277.2	283.0	
	アフリカ	北アフリカ	アルジェリア	3.9	4.0	3.8
エジプト			8.6	8.8	8.9	9.0
リビア			0.2	0.1	0.1	0.1
モロッコ			7.3	4.0	2.6	8.1
チュニジア			1.1	1.5	1.1	1.2
計		21.0	18.3	16.5	21.5	
サハラ以南		エチオピア	4.2	4.9	5.1	5.2
		南アフリカ	1.9	1.5	2.1	2.0
		その他	1.7	1.7	1.8	1.7
計		7.8	8.1	9.0	8.8	
計	28.8	26.4	25.5	30.3		
オセアニア	オーストラリア	17.6	14.5	33.3	32.0	
	計	18.0	14.9	33.8	32.4	
世界計		732.2	761.3	773.4	777.4	

Tは5万t以下、* EUは、2019/20年度以前が28か国、2020/21年度以降は27か国 (2021年11月18日現在)

(IGC)

[表3] 世界の小麦貿易量

(百万t)

輸 入 国		18/19	19/20	20/21 (推定)	21/22 (予測)	
ヨーロッパ	アルバニア	0.3	0.3	0.2	0.3	
	EU*	6.2	5.0	5.8	4.5	
	ノルウェー	0.4	0.3	0.3	0.4	
	スイス	0.5	0.6	0.4	0.6	
	その他	0.8	1.0	2.8	2.5	
	計	8.2	7.1	9.6	8.3	
CIS	アゼルバイジャン	1.1	1.3	1.4	1.5	
	ジョージア	0.5	0.5	0.7	0.6	
	ロシア	0.3	0.2	0.2	0.2	
	タジキスタン	1.2	1.2	1.2	1.1	
	ウズベキスタン	2.8	2.7	3.7	3.2	
	その他	1.6	2.3	1.4	1.7	
	計	7.5	8.2	8.6	8.2	
北中米	キューバ	0.7	0.6	0.6	0.7	
	メキシコ	4.9	5.2	4.7	5.2	
	アメリカ	2.9	2.2	1.9	2.7	
	その他	3.5	3.9	3.5	3.6	
	計	12.0	11.9	10.8	12.2	
南 米	ボリビア	0.5	0.6	0.5	0.5	
	ブラジル	7.2	7.3	6.3	6.4	
	チリ	1.2	1.2	1.5	1.4	
	コロンビア	1.6	2.1	1.9	2.0	
	エクアドル	1.2	1.2	1.4	1.2	
	ペルー	2.2	2.0	2.3	2.2	
	ベネズエラ	0.7	0.6	0.8	0.9	
	その他	0.3	0.3	0.1	0.1	
	計	14.8	15.3	14.8	14.7	
近東アジア	イラン	0.2	1.0	2.0	6.8	
	イラク	3.8	2.0	2.0	2.9	
	イスラエル	1.6	1.8	1.6	1.6	
	ヨルダン	0.8	0.9	1.2	1.3	
	クウェート	0.6	0.5	0.4	0.5	
	レバノン	1.5	1.0	1.2	1.2	
	サウジアラビア	3.2	3.6	2.8	2.9	
	シリア	0.7	0.6	0.4	0.6	
	トルコ	6.8	12.6	8.6	10.0	
	UAE	1.4	1.9	1.3	1.7	
	イエメン	3.8	3.7	4.1	3.7	
その他	1.1	1.2	1.1	1.2		
	計	25.5	30.9	26.6	34.3	
極東アジア	太平洋アジア	中国	3.2	6.6	10.8	10.5
		インドネシア	10.9	10.4	10.5	10.4
		日本	5.5	5.5	5.1	5.4
		北朝鮮	0.3	0.3	0.1	0.3
		韓国	3.8	3.8	3.6	4.0
		マレーシア	1.6	1.5	1.6	1.7
		フィリピン	7.6	7.0	6.0	6.6
		シンガポール	0.4	0.5	0.4	0.4
		台湾	1.3	1.2	1.4	1.4
		タイ	2.9	3.6	3.1	3.4
		ベトナム	3.0	3.0	3.9	3.6
		その他	0.9	0.9	1.0	0.8
			計	41.3	44.6	47.6

輸 入 国			18/19	19/20	20/21 (推定)	21/22 (予測)
極東アジア	南アジア	バングラデシュ	5.0	7.2	7.2	7.2
		インド	T	T	T	T
		パキスタン	T	T	3.5	3.0
		スリランカ	0.8	1.1	1.5	1.5
		その他	3.3	2.8	3.2	3.2
		計	9.1	11.1	15.4	14.9
計			50.4	55.6	63.0	63.3
アフリカ	北アフリカ	アルジェリア	7.8	7.2	7.7	7.1
		エジプト	12.5	12.7	12.2	12.9
		リビア	1.5	1.2	1.4	1.3
		モロッコ	4.2	4.8	5.1	4.4
		チュニジア	1.8	1.9	1.8	2.0
		計	27.8	27.8	28.1	27.7
	サハラ以南	コートジボワール	0.7	0.8	0.7	0.7
		エチオピア	0.7	1.7	1.2	1.4
		ケニア	1.8	2.4	2.1	2.2
		ナイジェリア	4.7	5.3	6.6	5.7
		南アフリカ	1.7	2.3	2.0	1.9
		スーダン	2.2	2.8	2.1	2.2
		その他	10.0	10.9	11.8	11.2
		計	21.8	26.2	26.5	25.2
計			49.6	54.0	54.6	52.9
オセアニア	ニュージーランド	0.5	0.5	0.5	0.5	
	その他	0.8	1.4	0.7	0.8	
	計	1.4	1.9	1.2	1.3	
世 界 計			168.9	185.3	190.7	195.7

輸 出 国		18/19	19/20	20/21 (推定)	21/22 (予測)
アルゼンチン		13.5	14.8	10.1	13.0
オーストラリア		9.8	10.1	19.7	24.3
カナダ		23.9	23.0	27.6	17.3
EU*		22.3	37.1	28.1	32.9
カザフスタン		8.7	6.7	8.1	7.0
ロシア		35.5	34.0	38.2	34.0
ウクライナ		16.0	21.0	16.8	24.5
アメリカ		25.9	26.2	26.5	24.1
ブラジル		0.6	0.4	0.9	0.8
中 国		0.4	0.4	0.1	0.4
インド		0.5	0.6	3.5	5.0
パキスタン		1.4	0.4	0.3	0.5
メキシコ		0.5	1.2	0.6	0.8
トルコ		5.1	4.8	4.7	5.0
その他		4.8	4.7	5.4	6.0
世 界 計		168.9	185.3	190.7	195.7

年度は7月～6月、Tは5万t以下、*EUは、2019/20年度以前が28か国、2020/21年度以降は27か国。数値が[表1]の輸出入値より若干低い場合が多いが、本表では製粉製品を含まないためと考えられるので、そのまま記載した。(2021年11月18日現在)
(IGC)

[表4] 世界の小麦収穫面積

地 域・国 名		収穫面積 (百万ha)				前年度比	
		19/20	20/21 (推定)	21/22 (予測)	22/23		
					(予想)	(%)	
ヨーロッパ	EU*	26.0	22.8	23.7	23.7	-0.1	
	計	26.9	25.1	26.5	26.4	-0.1	
CIS	カザフスタン	11.3	12.1	12.7	12.5	-1.6	
	ロシア	27.3	28.7	28.0	28.0	-0.2	
	ウクライナ	7.0	6.8	7.1	7.4	4.9	
	計	50.3	52.1	52.4	52.5	0.1	
北・中米	カナダ	10.0	10.0	9.2	9.9	8.0	
	アメリカ	15.1	14.9	15.0	15.9	5.9	
	計	25.7	25.5	24.8	26.4	6.6	
南米	アルゼンチン	6.7	6.3	6.5	6.5	0.2	
	計	10.0	9.9	10.5	10.0	-4.7	
近東アジア	イラン	6.7	6.7	6.3	6.7	6.3	
	トルコ	6.8	7.3	7.2	7.3	2.0	
	計	17.5	18.6	17.8	17.4	-2.3	
極東アジア	中 国	23.7	23.8	23.8	23.5	-1.3	
	インド	29.9	33.6	34.6	33.5	-3.2	
	パキスタン	8.7	8.8	9.2	9.3	1.1	
	計	66.3	70.3	71.6	70.2	-2.0	
アフリカ	北アフリカ	エジプト	1.4	1.4	1.4	1.4	0.7
		モロッコ	2.8	2.8	2.9	2.9	1.8
		計	7.0	6.9	7.2	7.3	1.1
	計	10.0	10.0	10.4	10.5	0.7	
オセアニア	オーストラリア	9.9	13.0	13.0	12.6	-2.8	
	計	9.9	13.0	13.0	12.6	-2.8	
世界計		216.8	224.5	226.9	226.0	-0.4	

*EUは2019/20年度迄は28か国、2020/21年度以降は27か国。(2021年11月18日現在)

(IGC)

[表5] 世界主要国の小麦粉生産量

(千t)

地区	国	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
ヨーロッパ	オーストリア	593	593	615 ^{d)}	615 ^{d)}	1,028 ^{d)}	617 ^{d)}	650	650	646	670
	ベルギー	1,161	1,161	1,125 ^{d)}	1,105 ^{d)}	1,028 ^{d)}	1,093	1,128	1,229	1,229	1,230
	デンマーク		400	400 ^{d)}	400 ^{d)}		400 ^{d)}	400	400	400	400
	フィンランド	199	310	255	310 ^{d)}	310 ^{d)}	300 ^{d)}	290	280	270	185
	フランス	4,375	4,492	4,445 ^{d)}	4,445 ^{d)}	4,275	4,445 ^{d)}	4,081	4,081	4,231	3,830
	ドイツ	5,619	6,387	5,598 ^{c)}	6,404 ^{c)}	5,976	5,976	6,105	6,233	6,202	6,132
	ギリシャ	674	615	648	626	626	820 ^{d)}	820	820	800	790
	イタリア ^{b)}	3,800		3,884 ^{d)}		4,026 ^{d)}	4,018	4,006	4,006	4,006	4,039
	オランダ	1,180	1,000	705 ^{d)}	705 ^{d)}		1,180 ^{d)}	1,227	1,300	1,050	1,300
	ポルトガル	680	680	680 ^{d)}	680 ^{d)}		680 ^{d)}	680	680	680	680
	スペイン	2,700	2,800	2,800 ^{d)}	2,800 ^{d)}	2,775	2,800 ^{d)}	2,850	2,900	2,875	3,000
	スウェーデン		600	600 ^{d)}	600 ^{d)}		550 ^{d)}	550	550	500	372
	イギリス	5,067	4,100	4,100 ^{d)}	4,100	3,873	3,841	3,900	3,900	3,900	4,084
	チェコ	745	756	756	733	944	944	940	944	975	936
	ハンガリー	980	910	905 ^{d)}		965	1,006	1,000	1,007	1,170	1,170
	リトアニア	269	160	160 ^{d)}	160 ^{d)}	160 ^{d)}	160 ^{d)}	160	160	170	170
	ポーランド ^{b)}	3,000	3,700	3,200	3,200		3,200	3,200	3,300	3,425	3,400
	スロバキア	293	272	248	257	335	328	327	341	329	314
	スロベニア	112	124	133	88	100	101	98	98	103	101
	ブルガリア	400	518	533	523	508	507 ^{d)}	516	516	477	477
ルーマニア	1,350	1,610	1,600	1,600	1,050	1,600	1,500	1,400	1,300	1,100	
クロアチア	357	366	332	328	309	500 ^{d)}	500	500	282	318	
ノルウェー			216	214	213	213	218	215	210	208	
スイス	359	368	375 ^{d)}	375 ^{d)}	365	513	371	371	363	358	
セルビア	525	500	531	445	465 ^{d)}	548	544	545	490 ^{d)}	468 ^{d)}	
CIS	アルメニア	156	156	235	169 ^{d)}	220 ^{d)}	182 ^{d)}	180 ^{d)}	169 ^{d)}	135	177
	アゼルバイジャン	1,321	1,328	1,381	1,438	1,476 ^{d)}	1,507	1,524 ^{d)}	1,595 ^{d)}	1,603 ^{d)}	1,782 ^{d)}
	ベラルーシ	637	764	770 ^{d)}	737 ^{d)}	627 ^{d)}	606 ^{d)}	799 ^{d)}	711 ^{d)}	423	382
	カザフスタン	3,754	3,846 ^{d)}	4,009 ^{d)}	3,881 ^{d)}	3,883 ^{d)}	3,741 ^{d)}	3,974 ^{d)}	3,910 ^{d)}	4,036 ^{d)}	3,308 ^{d)}
	キルギス	479	440 ^{d)}	447 ^{d)}	435 ^{d)}	445 ^{d)}	273 ^{d)}	233 ^{d)}	286 ^{d)}	181 ^{d)}	160 ^{d)}
	モルドバ	54	118 ^{d)}	102 ^{d)}	118 ^{d)}	118 ^{d)}	113 ^{d)}	104 ^{d)}	112 ^{d)}	106 ^{d)}	121 ^{d)}
	ロシア	8,960	10,000 ^{d)}	10,200 ^{d)}	9,048 ^{d)}	9,005	6,392	6,425	6,055	6,014	5,891
	タジキスタン	1,011	1,068	1,203	1,151	1,080	476	588	681		
	ウクライナ	2,423	2,596 ^{d)}	2,605 ^{d)}	2,378	2,199	2,056	1,974	1,991	1,746	1,738
北中アメリカ	カナダ	2,312	2,233	2,200	2,219	2,281	2,310	2,302	2,338	2,404	2,451
	キューバ	505	532	565	532	545	557	552	530	482	490
	ドミニカ	371	475	354	351	365	340	282	278	296	
	グアテマラ			653	639						
	ホンジュラス	327	332	362	369	383	384	418	436	458	453
	メキシコ	3,054	3,211	3,198	3,322	3,331	3,127	3,056	3,242		
	アメリカ	18,933	18,676	19,067	19,257	19,275	19,274	19,225	19,341	19,362	19,154
南アメリカ	アルゼンチン	4,733	4,791	4,527	3,765	4,123	4,179	4,079		4,064	4,461
	ブラジル	7,607	7,957	8,165	8,457	8,396	7,819	8,050	8,831	9,131	
	チリ ^{b)}	1,486	1,391	1,401	1,386	1,432	1,405	1,455	1,454	1,513	1,507
	ペルー	1,091	1,251	1,255	1,202	1,209	1,230	1,189	1,042	1,244	2,016
近東アジア	イラン	4,071	31,886								
	ヨルダン	296	287								
	クウェート	269	283								
	サウジアラビア			292 ^{d)}	313 ^{d)}	325	349	359	355		
	シリア	2,073	2,285	2,445	2,556	2,544	2,600	2,778	2,785	2,605	2,622
トルコ	7,106	7,815	7,697	8,334	8,479	12,000		12,000	12,000	12,000	

地区	国	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
極東アジア	中国										
	インドネシア	3,631	4,041	4,662	5,149	5,431	5,455	5,841	6,275	6,533	6,625
	日本	4,812	4,899	4,853	4,868	4,861	4,857	4,836	4,873		
	韓国	1,926	1,918	1,943	1,955	1,963	2,004				
	マレーシア	960	998	976	1,002	1,024	812	890	998	949	902
	モンゴル	144	105	115	188	240	211	210	209	239	212
	台湾	797	771	819	837	837	863				
	パングラデシュ インド ^{c)}	157 2,550	154	176	206	250	299				
北アフリカ	アルジェリア	534 ^{d)}	771 ^{d)}	720 ^{d)}							
	エジプト	5,325	4,127	5,913							
	チュニジア	822	861 ^{d)}	851 ^{d)}	863	878					
サハラ以南アフリカ	ケニア	757	815	845	884	989	1,104	1,133	1,231	1,332	1,357
	モーリシャス	128	98	122		122	130	127	123	121	115
	セネガル	306	351	334	350	273	247	238	214	192	259
	南アフリカ	2,396	2,358	2,454	2,410		2,472	2,527	2,536	2,591	2,623
	スーダン	1,264	1,410	1,450	1,694	1,957	2,000	2,126			
オセアニア	オーストラリア										
	ニュージーランド	239	239	256	264	265	262	240	242	253	252

*b) デュラムセモリナを除く、c) 小型製粉所を除く、d) 他穀物の製品を含む

(IGC-World Grain Statistics 2020)

[表6] 世界の小麦粉貿易量 (デュラム・セモリナを除く)

(小麦換算、千t)

地域・国名		18/19	19/20 (推定)	20/21 (予測)	21/22 (予想)	
輸 入 国	ヨーロッパ	EU*	73	51	171	170
		その他	291	306	379	370
		計	364	357	550	540
	CIS	タジキスタン	85	165	118	120
		ウズベキスタン	656	504	600	600
		その他	410	443	312	340
		計	1,151	1,112	1,030	1,060
	北・中 アメリカ	カナダ	79	81	75	80
		メキシコ	279	292	264	270
		アメリカ	373	370	368	370
		その他	240	183	142	110
		計	972	926	850	830
	南アメリカ	ボリビア	404	495	447	450
		ブラジル	464	426	355	400
		ベネズエラ	77	267	252	250
		その他	60	79	66	70
		計	1,005	1,268	1,120	1,170
	近東アジア	イラク	2,222	1,856	1,873	2,700
		イスラエル	93	134	83	100
		シリア	557	407	366	370
イエメン		982	673	658	650	
その他		416	445	380	370	
計		4,269	3,515	3,360	4,190	

地域・国名		18/19	19/20 (推定)	20/21 (予測)	21/22 (予想)		
輸 入 国	極東アジア	アフガニスタン	2,638	1,683	2,490	2,000	
		中国	296	331	124	300	
		香港	355	260	206	250	
		インドネシア	65	66	38	75	
		マレーシア	128	106	111	120	
		シンガポール	219	244	175	200	
		タイ	165	162	146	170	
		その他	655	675	240	535	
	計	4,521	3,527	3,530	3,650		
	アフリカ	北アフリカ	北アフリカ	138	47	40	50
			サハラ以南	アンゴラ	477	359	350
			ベナン	126	135	164	150
			ブルキナファソ	109	149	87	90
			エリトリア	216	276	150	150
			ガーナ	73	78	107	110
			マダガスカル	141	79	150	150
			ソマリア	446	296	334	330
			シエラレオネ	84	68	84	82
			トーゴ	59	49	60	60
		その他	472	898	604	638	
	計	2,206	2,388	2,090	2,110		
計	2,344	2,436	2,130	2,160			
オセアニア	102	137	140	130			
その他・不詳	1,019	1,418	790	970			
世界計	15,745	14,655	13,500	14,700			
輸 出 国	アルゼンチン	876	926	804	850		
	カナダ	261	236	240	240		
	EU*	639	626	603	650		
	カザフスタン	2,691	2,156	2,336	2,150		
	ロシア	395	438	285	400		
	ウクライナ	421	469	178	500		
	アメリカ	370	376	346	370		
	中国	381	416	107	150		
	エジプト	931	727	615	700		
	インド	267	308	425	500		
	イラン	169	400	25	50		
	日本	233	234	241	230		
	パキスタン	974	200	250	500		
	スリランカ	88	114	96	100		
	トルコ	4,928	4,606	4,534	4,900		
アラブ首長国連邦	50	100	50	50			
その他	2,075	2,362	2,364	2,360			

輸入小麦で挽いた粉(小麦換算)も含む。 *EUは、2019/20年度以前が28か国、2020/21年度以降は27か国(2021年10月21日現在)

(IGC)

[表7] アメリカ小麦の需給

(百万t)

年 度		2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22 (予測)	
作付面積 (百万ha)		18.64	19.35	18.41	17.99	18.90	
収穫面積 (百万ha)		15.20	16.03	15.13	14.89	15.04	
単収 (t/ha)		3.12	3.20	3.48	3.34	2.98	
供 給	期初在庫	32.14	29.91	29.39	27.98	23.00	
	生 産	HRW	20.41	18.02	23.00	17.94	20.38
		HRS	10.45	15.98	14.15	14.45	8.08
		SRW	7.97	7.78	6.53	7.24	9.82
		White	7.05	7.40	7.43	8.25	5.47
		Durum	1.50	2.12	1.47	1.88	1.01
	計	47.38	51.30	52.58	49.75	44.80	
輸 入	4.30	3.67	2.83	2.72	3.13		
計	83.80	84.89	84.80	80.48	70.92		
需 要	国内消費	食 用	26.24	25.96	26.18	26.15	26.18
		種子用	1.71	1.61	1.63	1.74	1.80
		飼料用、他	1.28	2.39	2.64	2.59	3.67
	計	29.26	29.99	30.43	30.48	31.65	
	輸 出	24.66	25.50	26.37	27.00	23.41	
計	53.91	55.49	56.80	57.45	55.06		
期末在庫		29.91	29.39	27.98	23.00	15.87	
平均農家価格 (ドル/bu)		4.72	5.16	4.58	5.05	6.90	

(2021年11月10日現在)

(USDA)

[表8] アメリカ小麦の銘柄別需給

(百万t)

銘 柄	HRW		HRS		SRW		White		Durum		小麦計			
	20/21	21/22	20/21	21/22	20/21	21/22	20/21	21/22	20/21	21/22	20/21	21/22		
供 給	期初在庫		13.77	11.65	7.62	6.40	2.86	2.31	2.59	1.91	1.14	0.73	27.98	23.00
	生 産		17.94	20.38	14.45	8.08	7.24	9.82	8.25	5.47	1.88	1.01	49.70	44.80
	計*		31.81	32.17	23.35	15.98	10.23	12.27	11.00	7.51	4.03	2.99	81.07	70.92
需 要	国内消費	食 用	10.26	11.16	7.16	6.48	4.03	4.08	2.31	2.29	2.39	2.18	26.15	26.18
		飼料用、他	-0.03	2.31	1.61	-0.27	1.66	2.04	-0.71	-0.27	0.08	-0.14	2.59	3.67
	計		10.94	14.23	9.23	6.67	6.04	6.48	1.74	2.18	2.53	2.12	30.48	31.65
	輸 出		9.25	9.80	7.73	5.85	1.88	3.27	7.35	4.08	0.76	0.41	27.00	23.41
計		20.19	24.03	16.96	12.52	7.92	9.74	9.09	6.26	3.29	2.53	57.45	55.06	
期末在庫		11.65	8.14	6.40	3.46	2.31	2.53	1.91	1.25	0.73	0.46	23.00	15.87	

*輸入を含む (2021年11月10日現在)

(USDA)

[表9] 2021年アメリカ産ハード・レッド・スプリング小麦 (太平洋岸向け地区分)の平均品質

年		2020	2021		過去5年の 平均
区分		平均	蛋白13.5~14.5%	平均	
小 麦	容積重 (kg/hl)	82.0	80.6	79.3	81.0
	千粒重 (g)	31.8	26.6	27.0	30.3
	欠陥粒計 (%)	0.9	1.7	1.9	1.2
	水分 (%)	11.1	11.1	10.8	11.4
	灰分* (%)	1.54	1.53	1.55	1.50
	蛋白** (%)	14.4	14.2	15.8	14.5
	沈降価 (cc)	65.0	69.0	69.0	66.0
	フォーリング・ナンバー (秒)	372	388	374	383
粉	粉採取率 (%)	66.9	66.7	64.5	68.1
	灰分* (%)	0.52	0.53	0.53	0.51
	アミロ粘度*** (BU)	708	794	750	621
	ファリノ吸水 (%)	63.3	61.0	62.4	63.8
	〃 ピークタイム (分)	8.1	8.1	9.9	8.1
	エクステンション面積 (cm ²)	138	123	129	101
	パン吸水 (%)	69.3	64.2	66.1	69.3
	〃 体積 (cc)	975	960	935	987

*14%水分ベース、**12%水分ベース、***粉65gで試験

(USWA 2021 Crop Quality Report)

[表10] アメリカ太平洋岸北西部産ソフト・ホワイト小麦生産量

(百万t)

年		2017		2018		2019		2020		2021 (推定) (9.30 現在)	
副銘柄		SW	Club	SW	Club	SW	Club	SW	Club	SW	Club
州	ワシントン	2.8	0.3	3.0	0.3	3.1	0.1	3.8	0.2	1.9	0.1
	オレゴン	1.1	0.0	1.2	0.0	1.2	0.0	1.2	0.0	0.8	1.2
	アイダホ	1.4	0.0	1.5	0.0	1.6	0.0	2.0	0.0	1.4	0.0
3州副銘柄小麦 計		5.3	0.4	5.7	0.4	5.9	0.2	6.9	0.3	6.9	0.2
3州ソフト・ホワイト小麦 計		5.6		6.0		6.0		7.2		4.3	
全米ソフト・ホワイト小麦 計		6.2		6.5		6.6		7.6		4.8	

SW：ソフト・ホワイト小麦、Club：ホワイト・クラブ小麦

(USWA 2021 Crop Quality Report)

[表11] 2021年アメリカ太平洋岸北西部産ソフト・ホワイト小麦の平均品質

区分		2020		2021		過去5年の平均	
副銘柄		SW	Club	SW	Club	SW	Club
小 麦	容積重 (kg/hl)	77.9	78.5	81.4	81.0	80.7	79.7
	千粒重 (g)	36.3	29.0	27.1	32.3	36.0	32.1
	欠陥粒計 (%)	1.1	1.7	0.5	0.9	0.6	0.9
	水分 (%)	8.8	8.0	9.2	8.5	9.3	8.6
	灰分* (%)	1.48	1.35	1.35	1.29	1.34	1.29
	蛋白質** (%)	9.8	11.3	11.5	9.8	9.8	9.7
	沈降価 (cc)	21.7	11.0	18.1	11.4	16.9	11.5
	フォーリング・ナンバー (秒)	323	322	344	345	321	334
粉	粉採取率 (%)	72.6	74.7	70.1	72.0	73.1	74.7
	灰分* (%)	0.43	0.48	0.45	0.42	0.42	0.45
	アミロ粘度*** (BU)	461	439	530	529	464	483
	スポンジケーキ体積 (cc)	1120	1129	1081	1070	1119	1159
	クッキー直径 (cm)	8.7	9.2	8.6	9.1	8.8	9.2

*14%水分ベース, **12%水分ベース, ***粉65gで試験

(USWA 2021 Crop Quality Report)

[表12] 2021年オーストリア産普通小麦の生産量と品質

項目と単位		2020年産		2021年産	
作付面積 (千ha)		241.0		237.5	
生産量 (千t)		1,578		1,445	
収量 (t/ha)		6.1		5.6	
		Pannon地区	Alpen地区	Pannon地区	Alpen地区
蛋白質 (乾物量%)		14.6	13.2	15.0	13.2
グルテン (%)		34.5	30.7	33.7	29.8
沈降価 (ml)		63	51	71	56
フォーリングナンバー (秒)		352	320	344	346
パン体積 (ml/100g)		720	680	710	680

(MM)

[表13] カナダ小麦の作付、収穫面積、収量、生産量

	小麦の種類	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
作付面積 (千ha)	デュラム小麦を除く小麦	7,020	7,570	8,145	7,892	7,254
	デュラム小麦	2,106	2,503	1,980	2,302	2,238
	小麦計	9,126	10,073	10,126	10,194	9,493
収穫面積 (千ha)	デュラム小麦を除く春小麦	6,895	7,426	7,754	7,723	6,984
	デュラム小麦	2,088	2,456	1,908	2,295	2,186
	小麦計	8,983	9,881	9,662	10,018	9,170
収量 (t/ha)	デュラム小麦を除く春小麦	3.7	3.6	3.6	3.7	2.6
	デュラム小麦	2.4	2.4	2.6	2.9	1.6
	小麦計	3.4	3.3	3.4	3.5	2.4
生産量 (千t)	デュラム小麦を除く春小麦	25,415	26,567	27,653	28,612	18,170
	デュラム小麦	4,962	5,785	5,017	6,571	3,545
	小麦計	30,377	32,352	32,670	35,183	21,715

(2021年11月19日現在)

(Statistics Canada)

[表14] カナダ・ウエスタン・レッド・スプリング小麦の蛋白量

(%)

州	CWRS全体			No.1CWRS			No.2 CWRS
	2019年	2020年	2021年	2019年	2020年	2021年	2021年
アルバータ	13.5	13.1	14.8	14.0	13.0	14.8	14.2
サスカチュワン	13.2	13.2	14.6	13.7	13.4	14.8	14.2
マニトバ	14.0	13.9	14.7	14.3	14.0	14.9	14.3
平均	13.5	13.3	14.7	14.0	13.4	14.8	14.2

13.5%水分ベース、CNA法に換算。(2021年は11月15日現在)

(Canadian Grain Commission)

[表15] 2021年産No.1カナダ・ウエスタン・レッド・スプリング小麦の平均品質

試料	品質項目	平原西部産				平原東部産	
		2020年		2021年		2020年	2021年
小麦	容積重 (kg/hl)	82.7		82.3		81.6	81.7
	千粒重 (g)	35.4		35.4		33.1	31.7
	灰分 (%)	1.54		1.36		1.51	1.40
	蛋白質 (%)	13.2		15.2		13.9	14.9
	フォーリング・ナンバー (秒)	395		370		380	390
	粉採取率 (%)	75.6		75.4		75.7	75.3
以下の試験に使用した粉の採取率		74%	60%	74%	60%	74%	
粉	灰分 (%)	0.45	0.40	0.42	0.38	0.44	0.41
	蛋白質 (%)	12.6	12.4	14.4	14.2	13.2	14.2
	損傷でん粉 (%)	8.3	8.4	7.8	7.9	7.9	7.7
	アミロ粘度 (BU)	630	680	638	684	730	710
	ファリノ吸水 (%)	65.6	65.0	65.5	65.0	64.9	63.5
	◇ DT (分)	5.25	6.25	8.75	10.75	5.75	8.25
	◇ MTI (BU)	30	20	25	10	25	15
	◇ 安定度 (分)	7.5	11.5	12.5	21.0	9.0	16.0
パン	パン吸水 (%)	66	65	66	65	69	68
	ミキシング時間 (分)	4.0	4.5	4.0	4.6	5.1	6.2
	体積 (cm ³ /粉100g)	995	980	1045	1075	1040	1075

平原西部はサスカチュワン州中央より西、平原東部はそれより東
 小麦は水分13.5%ベース、粉は水分14.0%ベース
 製粉はビューラーテストミルによる。アミロ粘度は粉65gによる試験の最高粘度
 ファリノのDT=ディベロップメント・タイム、MTI=ミキシング・トレランス指数
 製パンは、平原西部産が中種法、平原東部産がカナダ短時間

(Canadian Grain Commission)

[表16] 2021年産カナダ・ウエスタン・アンバー・デュラム小麦の平均品質

試料	品質項目	1CWAD		2CWAD	
		2020年	2021年	2020年	2021年
小麦	容積重 (kg/hl)	82.3	80.7	81.2	78.9
	千粒重 (g)	41.4	38.5	37.5	37.8
	硝子粒 (%)	92	93	92	77
	灰分 (%)	1.57	1.52	1.66	1.59
	蛋白質 (%)	13.5	16.0	14.0	16.3
	フォーリング・ナンバー (秒)	445	380	440	327
	粉採取率 (%)	74.5	74.2	74.8	73.7
セモリナ	セモリナ採取率 (%)	66.4	66.0	66.2	65.2
	灰分 (%)	0.73	0.74	0.77	0.75
	蛋白質 (%)	12.6	15.0	12.9	15.1
	黄色色素 (ppm)	11.1	11.2	10.8	11.2
	黄み (b*)	34.9	33.5	34.4	33.3
	スペック (個/cm ²)	6	7	9	9
	アルベオL (mm)	102	100	101	103
〃 P (mm)	73	79	71	87	
〃 W×10 ⁻⁴ (joules)	216	231	202	276	
パスタ	明度 (L*)	72.9	70.1	72.4	69.8
	赤み (a*)	4.3	6.8	4.7	7.0
	黄み (b*)	67.2	64.1	66.1	63.9

小麦は水分13.5%ベース、粉は水分14.0%ベース

(Canadian Grain Commission)

[表17] 2021年ドイツ産冬小麦の平均品質

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
蛋白質 (乾物量%)	13.0	12.9	12.9	13.3	13.5
沈降価 (ml)	47	46	48	42	47
パン体積 (ml/100g)	690	618	604	618	604

(MM)

[表18] 2021年ドイツ産冬小麦の品質グループ・品種別生産比率と品質

グループ	品種	生産比率 (%)	蛋白 (乾物量%)	沈降価 (ml)
E	Ponticus	5.2	13.6	61
	KWS Emerick	1.4		
	その他	5.1		
	計	11.7		
A	RGT Reform	16.4	12.8	48
	Asory	5.4		
	その他	28.7		
	計	50.5		
B	Informer	5.6	12.1	41
	Campesino	2.6		
	その他	9.5		
	計	17.7		
C	Elixer	2.8	9.7	21
	KWS Keitum	0.4		
	その他	0.3		
	計	3.5		
EU*	Chevignon	4.2	12.6	45
	Euclide	1.6		
	その他	8.1		
	計	13.9		
不詳		2.7		
平均		100.0	12.7	47

*EU域内の他の国由来の品種

(MM)

(10月分)

(単位：トン、金額：千円)

年月	区分	うどんおよびそうめん			その他のめん類			食パン、乾パン類			ビスケット			ふすま		
		数量	金額	前年増減率	数量	金額	前年増減率	数量	金額	前年増減率	数量	金額	前年増減率	数量	金額	前年増減率
2012	97	219	57,394	-35.4	24,186	6,161,467	9.821	2,765,461	21,977	8,597,913	88,194	8,597,913	88,194	8,597,913	-11.3	1,790,710
2013	105	253	89,774	15.1	22,901	6,906,566	9.633	3,082,802	17,987	8,561,982	113,573	8,561,982	113,573	8,561,982	28.8	3,177,431
2014	121	379	141,348	49.9	22,055	7,253,791	7.987	2,613,321	16,655	7,474,826	100,799	7,474,826	100,799	7,474,826	-11.2	2,657,890
2015	109	499	207,350	31.8	21,525	7,754,875	7.240	2,593,509	13,899	7,862,084	72,887	7,862,084	72,887	7,862,084	-27.7	1,987,766
2016	112	266	101,288	-46.8	20,606	6,593,003	6.119	1,998,614	18,739	8,363,430	66,468	8,363,430	66,468	8,363,430	-8.8	1,481,114
2017	111	272	110,939	2.4	22,243	7,207,768	5.323	1,904,311	24,296	10,631,548	66,017	10,631,548	66,017	10,631,548	-0.7	1,550,343
2018	109	97	41,101	-64.4	22,843	7,580,983	5.451	2,028,010	24,853	10,662,848	67,863	10,662,848	67,863	10,662,848	2.8	1,651,729
2019	109	87	34,792	-10.3	23,350	7,526,310	8.040	2,635,097	25,075	10,558,445	77,415	10,558,445	77,415	10,558,445	14.1	1,989,882
2020	107	21	8,521	-75.4	26,232	8,424,816	7.316	2,498,852	27,828	11,013,909	94,350	11,013,909	94,350	11,013,909	21.9	2,359,812
2021年1月	104	0	0	0.0	1,763	578,999	410	139,198	1,886	880,780	0	880,780	0	880,780	-100.0	0
2	105	10	2,932	0.0	2,047	653,322	448	179,734	2,262	894,388	11,031	894,388	11,031	894,388	69.0	280,669
3	107	0	0	0.0	2,216	741,774	551	198,408	2,592	1,050,753	8,386	1,050,753	8,386	1,050,753	133.4	229,203
4	110	0	0	0.0	3,099	1,035,217	660	272,214	2,571	1,044,230	6,059	1,044,230	6,059	1,044,230	-35.1	184,809
5	109	0	0	0.0	2,488	853,601	526	208,483	2,494	1,023,996	3,947	1,023,996	3,947	1,023,996	57.1	118,800
6	110	14	8,036	-27.2	2,270	714,402	848	319,098	2,241	895,528	6,597	895,528	6,597	895,528	-27.6	193,501
7	111	0	0	0.0	2,398	815,576	801	291,466	2,423	1,040,336	13,164	1,040,336	13,164	1,040,336	-15.6	428,263
8	110	0	0	0.0	2,054	703,612	855	318,754	2,302	1,147,399	2,296	1,147,399	2,296	1,147,399	-67.7	85,428
9	110	0	0	0.0	1,888	668,785	575	239,733	3,000	1,413,239	10,853	1,413,239	10,853	1,413,239	362.8	407,078
10	111	1	553	-41.6	2,017	692,886	692	304,280	2,576	1,341,569	10,795	1,341,569	10,795	1,341,569	-13.2	408,403
12																
2021年1月～12月累計		25	11,520	19.2	22,240	7,458,174	6,365	2,471,368	24,349	10,732,218	73,128	10,732,218	73,128	10,732,218	-3.9	2,336,154
米	国				127	28,705	1,469	566,756	742	754,847	7	754,847	7	754,847	-61.1	1,971
英	国						45	17,965	879	865,342	0	865,342	0	865,342	-100.0	0
中	国	10	2,932	181.0	13,106	4,253,175	475	125,045	5,134	1,535,846		1,535,846		1,535,846		
仏	国				0	0	2,202	866,081	447	536,382		536,382		536,382		
香	港				0	0	0	0	7	20,199		20,199		20,199		
イ	ン				27	6,872	0	0	5,777	1,915,459	16,752	1,915,459	16,752	1,915,459	-15.7	470,791
ト	ン								109	58,521		58,521		58,521		
ス	ラ				10	4,256			48	18,719		18,719		18,719		
タ	イ				4,627	1,853,773	101	54,699	643	323,399		323,399		323,399		
独	国				540	276,197	196	118,938	610	180,993		180,993		180,993		
カ	ナ				12	5,794	181	58,133	487	144,014		144,014		144,014		
デ	ン								181	26,9		26,9		26,9		
フ	ラ				18	5,138	8	3,360	32	5,746		5,746		5,746		
ス	ラ								8	38,486		38,486		38,486		
オ	ス				4	1,160			247	152,724		152,724		152,724		
シ	ン				421	169,881	18	6,419	778	643,074		643,074		643,074		
ン	ガ				1,080	328,851	281	81,194	1,397	458,247		458,247		458,247		
台	バ				14	8,035	80	28,806	72	190,225		190,225		190,225		
ベ	ン				1	553			131	68,7		68,7		68,7		
マ	カ								1,397	458,247		458,247		458,247		
フ	ィ				92	14,179	116	37,767	1,949	724,094		724,094		724,094		
ペ	ル				38	7,801	0	0	62	28,341		28,341		28,341		
ア	ル				90	26,903	4	955	1,078	616,761		616,761		616,761		
ス	エ															
イ	ン				2,023	465,004	66	38,311	1,338	474,760		474,760		474,760		
ソ	の				25	10,485	482	239,506	1,267	410,744		410,744		410,744		
伊	他				0	0										

(注) 財務省貿易統計(全国)品別国別表>輸入>月次)による。(2020年3月より年月表記を財務省貿易統計データに順じて西暦記載)

製粉工場における玄麦および小麦粉の月別需給動向（3年度10・11月分）

（単位：千トン、前年比%）

年 月	玄				麦				小				粉			
	買入数量	対前年比	加工量	対前年比	月末在庫	対前年比	生産量	対前年比	販売量	対前年比	月末在庫	対前年比	生産量	対前年比	販売量	対前年比
平成26年度	6,210	113.9	5,928	99.8	1,362	126.4	4,683	99.8	4,675	99.5	310	102.4	4,683	99.8	4,675	99.5
平成27年度	5,838	94.0	5,959	100.5	1,242	91.2	4,702	100.4	4,698	100.5	314	101.4	4,702	100.4	4,698	100.5
平成28年度	5,947	101.9	5,943	99.7	1,246	100.3	4,683	99.6	4,682	99.7	315	100.3	4,683	99.6	4,682	99.7
平成29年度	6,157	103.5	5,950	100.1	1,452	116.5	4,703	100.4	4,711	100.6	307	97.4	4,711	100.4	4,711	100.6
平成30年度	5,773	93.8	5,864	98.5	1,361	93.7	4,672	99.3	4,672	99.2	307	100.1	4,672	99.3	4,672	99.2
令和元年度	5,732	99.3	5,840	99.6	1,253	92.1	4,623	99.0	4,626	99.0	304	99.1	4,623	99.0	4,626	99.0
令和2年度	5,745	100.2	5,681	97.3	1,317	105.1	4,482	96.6	4,491	97.1	294	96.9	4,482	96.6	4,491	97.1
2.4	416	123.8	519	102.4	1,151	96.7	410	101.2	403	96.7	312	105.4	410	101.2	403	96.7
5	457	132.7	446	93.8	1,162	109.7	354	94.1	354	95.1	312	103.9	354	94.1	354	95.1
6	534	89.7	464	98.8	1,232	104.0	365	98.6	383	105.4	294	95.7	365	98.6	383	105.4
7	322	86.2	480	101.3	1,074	99.0	376	100.9	378	95.9	293	102.2	376	100.9	378	95.9
8	610	104.4	453	96.2	1,231	102.7	354	95.3	349	94.0	297	103.8	354	95.3	349	94.0
9	601	115.2	477	97.8	1,355	110.0	373	97.3	375	98.6	295	102.1	373	97.3	375	98.6
10	457	116.0	488	96.7	1,324	118.1	383	95.9	386	97.6	292	99.6	383	95.9	386	97.6
11	436	74.9	483	93.4	1,276	107.6	380	93.6	375	93.8	298	99.2	380	93.6	375	93.8
12	412	87.4	522	100.5	1,167	102.5	412	99.5	407	99.2	303	99.7	412	99.5	407	99.2
3.1	425	101.9	430	96.6	1,162	104.7	343	97.5	341	96.1	305	101.5	343	97.5	341	96.1
2	419	98.7	428	93.5	1,152	107.1	337	93.0	342	94.4	300	99.7	337	93.0	342	94.4
3	655	95.2	491	96.0	1,317	105.1	394	96.1	399	98.2	294	96.9	394	96.1	399	98.2
3.4	475	114.1	510	98.3	1,283	111.5	406	98.9	402	99.9	298	95.6	406	98.9	402	99.9
5	352	77.0	449	100.6	1,186	102.1	353	99.7	348	98.4	303	97.1	353	99.7	348	98.4
6	472	88.5	462	99.6	1,196	97.1	362	99.0	380	99.3	284	96.6	362	99.0	380	99.3
7	362	112.2	463	96.5	1,095	101.9	364	96.7	367	97.1	281	96.1	364	96.7	367	97.1
8	497	81.5	446	98.3	1,146	93.1	350	99.0	345	99.0	286	96.2	350	99.0	345	99.0
9	840	139.8	463	97.1	1,523	112.4	365	97.9	366	97.8	285	96.3	365	97.9	366	97.8
10	497	108.8	486	99.7	1,534	115.9	381	99.6	379	98.3	286	98.0	381	99.6	379	98.3
11	372	85.3	505	104.5	1,401	109.8	398	104.6	397	105.9	287	96.5	398	104.6	397	105.9
12																
4.1																
2																
3																
年度計																

(注) 1.玄麦の買入・加工数量にはSBSでの買入量（19年度から）、大臣証明制度による輸出見返り分、納付金輸入分、民間流通及びその他国内産麦を含み、小麦粉の生産・販売量は、輸出分を除いた数量である。
 2.「製粉・精麦工場需給実績報告」(農産局農産政策部貿易業務課)による。
 3.四捨五入の関係で内訳と計が一致しないことがある。

小麦加工食品の輸出の推移 (2021年10・11月分)

(単位：トン、金額：千円)

区 分 年 月	小麦粉・小麦 (ひき割、ミール、ベレット)			小麦粉調製品 (ケーキ・ミックスを含む)			マカロニおよびスパゲッティ			うどんおよびそうめん		
	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額
2013	168,205	-12.7	7,024,555	2,116	5.9	933,402	573	-4.2	123,557	10,424	-3.6	2,903,697
2014	166,311	-1.1	7,446,467	2,273	7.4	1,059,270	571	-0.4	129,060	10,992	5.5	3,172,667
2015	157,938	-5.0	7,855,434	2,374	4.4	1,063,480	553	-3.2	140,319	12,791	16.4	3,806,919
2016	158,861	0.6	6,860,588	2,551	7.5	1,073,376	549	-0.6	131,138	13,504	5.6	4,077,925
2017	167,600	5.5	7,233,288	2,562	0.4	1,198,531	532	-3.2	131,089	13,759	1.9	4,218,943
2018	163,640	-2.4	7,427,758	2,592	1.2	1,291,073	535	0.6	136,263	14,064	2.2	4,266,026
2019	168,326	2.9	8,270,910	2,884	11.3	1,323,207	533	-0.4	154,401	13,731	-2.4	4,363,678
2020	167,372	-0.6	8,337,883	2,555	-11.4	1,142,142	574	7.8	164,995	12,830	-6.6	4,452,036
2021年1月	13,977	24.9	715,872	270	82.4	106,867	30	15.3	9,204	822	16.0	257,608
2	14,905	3.5	792,136	273	57.8	115,317	48	-12.6	11,862	940	-9.3	322,787
3	107	15,833	838,306	279	26.4	108,971	41	11.8	11,090	1,046	-16.9	331,232
4	11,844	-14.9	682,783	335	80.2	148,534	77	154.2	18,261	1,091	-6.4	377,313
5	13,798	-4.7	736,742	206	35.1	80,925	41	-11.1	8,476	918	-19.3	307,756
6	15,704	14.3	840,591	290	108.8	135,512	20	-24.3	5,718	1,040	13.2	333,373
7	13,008	-0.6	707,986	330	91.6	131,179	76	101.7	18,002	1,109	27.6	366,746
8	13,047	-1.3	761,947	356	87.2	144,018	28	31.3	9,154	1,006	1.7	336,772
9	14,003	-2.8	805,772	281	8.5	121,325	105	65.4	26,416	940	-23.5	310,871
10	16,037	12.5	1,008,471	279	-8.3	116,053	74	12.7	20,468	1,157	-8.8	403,713
11	14,245	-2.1	905,571	260	-10.6	104,616	70	31.4	17,146	1,059	-7.9	351,736
12												
2021年1～12月計	156,151	3.7	8,796,177	3,160	41.3	1,313,317	610	32.1	155,797	11,129	-5.1	3,699,907

区 分 年 月	ビスケット (スィート)			その他のペーカリー製品等			インスタントラーメン		
	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額	数量	前年増減率	金額
2013	769	-1.4	910,868	17,385	22.2	16,906,535	7,576	29.3	3,237,832
2014	861	12.0	1,072,471	21,221	22.1	21,627,809	7,075	-6.6	3,557,267
2015	1,249	45.0	1,701,696	25,462	20.0	28,390,941	7,892	11.5	4,276,613
2016	1,293	3.5	1,603,932	26,529	4.2	30,448,086	8,701	10.3	5,144,905
2017	778	-39.8	1,079,211	25,557	-3.7	29,838,397	9,235	6.1	5,837,269
2018	894	14.8	1,267,973	26,413	3.4	31,079,009	9,884	7.0	6,258,420
2019	876	-1.9	1,049,931	25,805	-2.3	30,576,732	9,078	-8.1	6,002,485
2020	881	0.5	1,068,887	26,096	1.1	30,774,145	12,106	33.4	8,556,592
2021年1月	60	16.0	123,300	2,022	55.4	2,592,612	699	7.8	517,982
2	58	-12.3	82,849	2,154	10.5	2,412,426	938	-7.9	638,952
3	107	63	87,945	2,651	38.9	3,170,861	1,075	-0.3	775,103
4	110	22.7	90,223	2,451	16.4	2,948,549	1,149	22.1	886,229
5	109	-26.8	81,219	2,420	37.5	2,893,911	887	4.4	683,355
6	71	34.1	111,153	2,522	27.5	2,846,320	1,096	1.6	827,733
7	110	12.3	91,323	2,517	24.6	2,979,019	873	-24.5	759,513
8	110	14.4	113,212	2,692	35.9	3,396,234	1,108	12.1	903,391
9	102	63.8	139,500	2,676	13.0	3,328,464	1,012	-12.7	784,525
10	116	5.3	148,497	3,217	11.7	4,394,385	1,073	-5.0	854,552
11	149	54.3	214,346	3,133	15.0	4,160,527	1,051	2.6	787,580
12									
2021年1～12月計	893	13.9	1,283,567	28,459	23.9	35,123,308	10,960	-1.0	8,418,915

(注) ①財務省貿易統計 (全国分>品別国別表>輸出>月次)による (2020年3月号より年月表記を財務省貿易統計データに順じて西暦記載)。
②その他のペーカリー製品等は、スィートビスケットおよび米菓を除く焼菓子類並びにライスバー等という。

国際価格の推移 (2021年12月・2022年1月分) (単位：トン当たりドル、()内はブシエール当たりドル)

品名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
小麦	2014	(5.68)	(5.99)	(6.90)	(7.02)	(6.78)	(5.86)	(5.38)	(5.51)	(5.01)	(5.06)	(5.61)	(6.19)	
	2015	(5.33)	(5.33)	(5.09)	(4.91)	(5.02)	(4.89)	(5.84)	(5.01)	(4.86)	(5.03)	(4.96)	(4.94)	
(シカゴ・SRW小麦No.2, 期近もの)	2016	(4.69)	(4.64)	(4.77)	(4.60)	(4.75)	(4.78)	(4.22)	(4.22)	(3.77)	(4.21)	(3.99)	(4.09)	
	2017	(4.26)	(4.55)	(4.12)	(4.30)	(4.23)	(4.54)	(4.95)	(4.30)	(4.21)	(4.40)	(4.28)	(4.18)	
	2018	(4.17)	(4.62)	(4.79)	(4.73)	(4.94)	(5.00)	(4.82)	(4.82)	(4.80)	(5.25)	(5.08)	(5.28)	
	2019	(5.11)	(5.04)	(4.48)	(4.60)	(4.49)	(5.39)	(5.08)	(5.08)	(4.69)	(5.07)	(5.17)	(5.39)	
	2020	(5.73)	(5.43)	(5.12)	(5.40)	(5.02)	(5.05)	(5.00)	(5.51)	(5.00)	(6.18)	(5.98)	(6.00)	
	2021	(6.75)	(6.58)	(6.45)	(6.54)	(6.84)	(6.61)	(6.61)	(6.72)	(7.61)	(7.13)	(7.34)	(8.27)	
	2022	(7.42)	242	237	240	270	243	247	280	262	270	270	304	278
	とうもろこし	2014	(4.26)	(4.45)	(4.72)	(5.04)	(4.84)	(4.47)	(3.74)	(3.66)	(3.43)	(3.48)	(3.82)	(4.09)
		2015	(3.80)	(3.87)	(3.74)	(3.76)	(3.61)	(3.48)	(4.24)	(3.63)	(3.79)	(3.76)	(3.58)	(3.77)
	(シカゴ・イエロー・コーンNo.2, 期近もの)	2016	(3.58)	(3.63)	(3.69)	(3.79)	(3.94)	(4.29)	(3.62)	(3.27)	(3.22)	(3.54)	(3.42)	(3.57)
2017		(3.59)	(3.79)	(3.54)	(3.71)	(3.68)	(3.80)	(3.65)	(3.65)	(3.39)	(3.53)	(3.38)	(3.48)	
2018		(3.48)	(3.68)	(3.87)	(3.86)	(4.02)	(3.61)	(3.61)	(3.30)	(3.62)	(3.37)	(3.78)	(3.77)	
2019		(3.71)	(3.75)	(3.62)	(3.63)	(3.70)	(4.53)	(4.41)	(3.61)	(3.74)	(3.93)	(3.78)	(3.66)	
2020		(3.88)	(3.78)	(3.70)	(3.19)	(3.17)	(3.29)	(3.29)	(3.26)	(3.24)	(3.66)	(4.16)	(4.24)	
2021		(5.31)	(5.52)	(5.49)	(5.90)	(7.27)	(6.67)	(6.67)	(5.64)	(5.64)	(5.33)	(5.25)	(5.76)	
2022		(5.96)	217	216	232	267	263	222	222	222	210	207	227	231

(注) シカゴ相場による月央の終値である (2021年12月分は12月15日、2022年1月分は1月14日)。

輸入食糧小麦の入札結果（港湾諸経費を除く）の概要

（単位：トン、円/トン）

入札月および積月	令和3年5月入札分 （7月積み／8月到着）			令和3年6月入札分 （8月積み／9月到着）			令和3年7月入札分 （9月積み／10月到着）			令和3年8月、9月第1回入札分 （10・11月積み／11・12月到着）			
	産地国	銘柄	数量	落札価格 （加重平均） ※税別	[参考値] ※左の税 ※込み価格 （税率8%）	数量	落札価格 （加重平均） ※税別	[参考値] ※左の税 ※込み価格 （税率8%）	数量	落札価格 （加重平均） ※税別	[参考値] ※左の税 ※込み価格 （税率8%）	数量	落札価格 （加重平均） ※税別
アメリカ		WW	52,660	41,280	44,582	83,812	47,149	50,921	40,785	45,056	48,660	40,585	58,459
		SH	52,700	39,301	42,445	79,720	39,299	42,443	42,375	39,477	42,635	118,130	48,660
		DNS	82,721	41,727	45,065	126,020	44,864	48,453	36,770	49,930	53,924	52,745	53,232
	小計		188,081	40,922	44,196	289,552	43,993	47,512	119,930	44,579	48,145	211,460	51,681
カナダ		1CW	127,570	39,421	42,575	185,725	42,707	46,124	79,981	45,311	48,936	133,213	48,787
		小計	127,570	39,421	42,575	185,725	42,707	46,124	79,981	45,311	48,936	133,213	48,787
オーストラリア		ASW	52,650	39,673	42,847	73,215	40,305	43,529	27,175	40,050	43,254	77,900	46,669
		小計	52,650	39,673	42,847	73,215	40,305	43,529	27,175	40,050	43,254	77,900	46,669
	計		368,301	40,224	43,442	548,492	43,065	46,510	227,086	44,295	47,839	422,573	49,845

入札月および積月	令和3年9月第2・3回入札分 （11月積み／12月到着）			令和3年10月入札分 （12・1月積み／1・2月到着）			令和3年11月入札分 （1・2月積み／2・3月到着）			令和3年12月入札分 （2・3・4月積み／3・4・5月到着）			
	産地国	銘柄	数量	落札価格 （加重平均） ※税別	[参考値] ※左の税 ※込み価格 （税率8%）	数量	落札価格 （加重平均） ※税別	[参考値] ※左の税 ※込み価格 （税率8%）	数量	落札価格 （加重平均） ※税別	[参考値] ※左の税 ※込み価格 （税率8%）	数量	落札価格 （加重平均） ※税別
アメリカ		WW	45,637	58,448	63,124	38,405	57,370	61,960	64,404	60,400	65,232	76,309	55,748
		SH	24,845	47,604	51,412	67,260	50,381	54,411	82,125	53,075	57,321	98,180	52,504
		DNS	44,020	53,431	57,705	42,057	56,943	61,498	62,058	57,826	62,452	115,514	57,692
	小計	114,502	54,166	58,499	147,722	54,066	58,391	208,587	56,750	61,290	290,003	55,424	
カナダ		1CW	87,196	48,957	52,874	109,325	52,794	57,018	149,728	54,884	59,275	199,092	54,878
		小計	87,196	48,957	52,874	109,325	52,794	57,018	149,728	54,884	59,275	199,092	54,878
オーストラリア		ASW	30,140	47,850	51,678	74,746	47,104	50,872	64,873	44,854	48,442	89,833	46,841
		小計	30,140	47,850	51,678	74,746	47,104	50,872	64,873	44,854	48,442	89,833	46,841
	計	231,838	51,386	55,497	331,793	52,079	56,245	423,188	54,266	58,607	578,928	53,904	

（注）上表の詳細は、農林水産省ホームページ「農産局」>米（稻）・麦・大豆>入札・定例販売情報「輸入米麦入札関連資料」>麦・一般麦を檢索して輸入小表に該当する箇所をご覧ください。
 （資料）農林水産省政策統括官付貿易業務課

■資料 ★★★

図1 小麦(子実用)の作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移(全国)

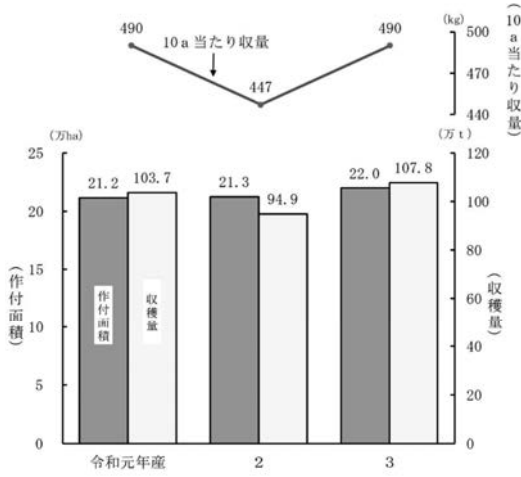


図2 令和3年産小麦(子実用)の都道府県別収穫量及び割合(全国)

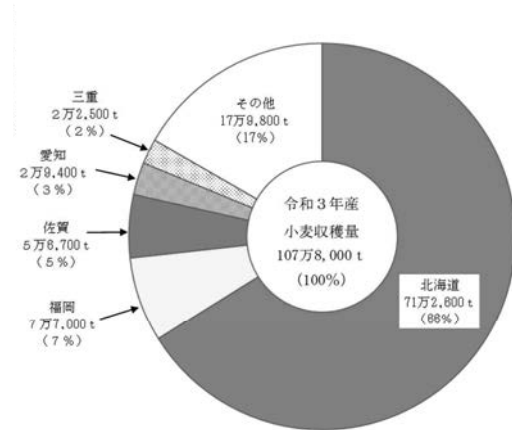


表2 令和3年産小麦(子実用)の秋まき、春まき別作付面積、10a当たり収量及び収穫量(北海道)

区分	作付面積	10a 当たり 収 量	収穫量	前年産との比較					(参考)	
				作付面積		10a当たり 収 量	収穫量		10a当たり 平均収量対比	10a当たり 平均収量
				対 差	対 比		対 差	対 比		
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
北海道	126,100	565	712,600	3,900	103	110	82,700	113	116	489
秋まき	108,500	599	649,900	3,100	103	111	80,700	114	117	513
春まき	17,600	356	62,700	800	105	99	2,000	103	108	330

◎累年データ

小麦(子実用)の作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

区分	全 国			北 海 道			都 府 県		
	作付面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10a当たり 収 量	収 穫 量	作付面積	10a当たり 収 量	収 穫 量
	ha	kg	t	ha	kg	t	ha	kg	t
平成24年産	209,200	410	857,800	119,200	492	586,100	90,100	302	271,700
25	210,200	386	811,700	122,000	436	531,900	88,100	318	279,800
26	212,600	401	852,400	123,400	447	551,400	89,200	337	301,000
27	213,100	471	1,004,000	122,600	596	731,000	90,500	302	273,200
28	214,400	369	790,800	122,900	427	524,300	91,500	291	266,500
29	212,300	427	906,700	121,600	500	607,600	90,700	330	299,100
30	211,900	361	764,900	121,400	388	471,100	90,500	325	293,800
令和元	211,600	490	1,037,000	121,400	558	677,700	90,200	398	359,400
2	212,600	447	949,300	122,200	515	629,900	90,400	353	319,400
3(概数)	220,000	490	1,078,000	126,100	565	712,600	93,900	389	365,200

【統計表】

1 令和3年産小麦(子実用)の畑別作付面積

全国農業地域 都道府県	計			田			畑		
	作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較		作付面積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
(全国農業地域)	220,000	7,400	103	123,100	5,000	104	97,000	2,500	103
北海道	126,100	3,900	103	34,100	1,400	104	91,900	2,400	103
東北	93,900	3,500	104	88,900	3,500	104	5,010	△ 10	100
関東	6,290	△ 10	100	5,630	△ 70	99	658	x	x
北陸	331	△ 24	93	263	△ 18	94	68	△ 6	92
東海	20,400	△ 100	100	17,100	100	101	3,400	△ 50	99
近畿	16,900	700	104	16,600	600	104	x	x	x
中国	8,270	180	102	8,250	170	102	x	x	x
四国	2,890	200	107	2,800	200	108	89	△ 2	98
九州	2,490	90	104	2,440	80	103	47	△ 6	115
沖縄	36,300	2,400	107	35,900	2,500	107	493	△ 17	97
(都道府県)	12	△ 1	92	-	-	nc	12	△ 1	92
北海道	126,100	3,900	103	34,100	1,400	104	91,900	2,400	103
青森	701	△ 15	98	579	△ 33	95	122	18	117
岩手	3,720	△ 20	99	3,350	△ 20	99	367	0	100
宮城	1,110	10	101	1,090	10	101	23	8	153
秋田	272	△ 3	99	269	x	x	3	x	x
山形	83	15	122	62	1	102	21	14	300
福島	408	△ 1	100	286	△ 12	96	122	11	110
茨城	4,510	△ 100	98	3,340	△ 170	95	1,180	90	108
栃木	2,290	△ 10	100	2,030	0	100	261	△ 7	97
群馬	5,430	△ 70	99	4,970	10	100	461	△ 80	85
埼玉	5,080	60	101	4,160	170	104	920	△ 110	89
千葉	791	60	108	541	28	105	250	32	115
東 京	14	△ 1	93	-	-	nc	14	△ 1	93
神 奈 川	42	△ 1	98	10	1	111	32	△ 2	94
新 潟	69	8	113	56	10	122	13	△ 2	87
富 山	50	2	104	50	2	104	-	-	nc
石 川	102	9	110	47	13	138	55	△ 4	93
福 井	110	△ 43	72	110	△ 43	72	-	-	nc
山 梨	76	2	103	40	4	111	36	△ 2	95
長 野	2,220	40	102	1,970	0	100	246	34	116
岐 阜	3,370	40	101	3,370	40	101	x	x	x
静 岡	744	17	102	716	17	102	28	0	100
愛 知	5,780	190	103	5,670	170	103	107	12	113
三 重	6,980	430	107	6,880	430	107	98	△ 7	93
滋 賀	6,240	80	101	6,230	70	101	10	6	250
京 都	174	15	109	174	15	109	0	0	nc
大 阪	2	1	200	2	1	200	-	-	nc
兵 庫	1,730	80	105	1,730	80	105	-	-	nc
和 歌 山	117	4	104	113	6	106	4	△ 2	67
鳥 取	3	1	150	x	x	x	x	x	x
島 根	77	6	108	40	5	114	37	1	103
岡 山	132	11	109	94	13	116	38	△ 2	95
広 島	968	80	109	968	81	109	0	△ 1	0
山 口	167	18	112	164	18	112	3	0	100
徳 島	1,550	80	105	1,530	80	106	11	0	100
香 川	54	1	102	50	4	109	4	△ 3	57
愛 媛	2,220	120	106	2,190	110	105	28	8	140
高 知	214	△ 34	86	200	△ 35	85	14	1	108
福 岡	4	0	100	3	0	100	1	0	100
佐 賀	16,000	1,300	109	16,000	1,300	109	10	△ 1	91
長 崎	11,600	1,000	109	11,500	1,000	110	111	△ 4	97
熊 本	651	52	109	539	39	108	112	13	113
大 分	5,150	140	103	5,000	170	104	157	△ 20	89
宮 崎	2,790	20	101	2,710	20	101	74	△ 2	97
鹿 兒 島	103	△ 10	91	91	△ 6	94	12	△ 4	75
沖 縄	33	1	103	16	0	100	17	1	106
	12	△ 1	92	-	-	nc	12	△ 1	92

こ～んなに便利！マイナンバーカード

NEW!

**健康保険証
として使える！**

※お住まいの地域・ご利用の機関によってサービス内容は異なりますので、事前のご確認をお願いします。

NEW!

**薬剤情報や
特定健診情報等が
マイナポータルで
確認できる！**

NEW!

**新型コロナワクチン
接種証明書の
電子交付にも利用！
(年内開始予定)**

確定申告でも
医療費通知情報を
カンタン連携

住民票の写しなども
コンビニで
カンタン取得



行政手続きも
オンラインで

本人確認書類
として使える

詳しくは **マイナンバーカード** で検索！
デジタル庁作成 (R3.11)

マイナンバーカードで、 新型コロナワクチンの接種証明書（電子版） が取得できるようになります

- ✓ 新型コロナワクチンの接種証明書（電子版）は、スマートフォン上で専用アプリから申請・取得し、表示可能となります。
※マイナンバーカードを読み取ることができるスマートフォンに限ります。
- ✓ 接種証明書（電子版）の申請には、マイナンバーカードが必要です。
- ✓ マイナンバーカードは、申請から交付の準備ができるまで概ね1か月かかります。お早めに申請・受け取りいただくようお願いします。
※お住まいの市区町村によって状況が異なりますので、市区町村のHPを併せてご確認ください。
- ※ 新型コロナワクチンの接種証明書（電子版）は、2021年12月頃から申請受付開始予定です。具体的な時期は決定次第、改めてお伝えいたします。

接種証明書（電子版）の活用ポイント



Point 1 目視確認

- ・紙の証明書と同様の内容がスマホの画面で確認できる

Point 2 二次元コード読み取り

- ・スマホ等で二次元コードを読み取ることでも内容が確認可能
- ・二次元コードに含まれる電子署名により、偽造を防止

内閣官房 デジタル庁 総務省 厚生労働省

<お問い合わせ先>

接種証明書全般：厚生労働省新型コロナワクチンコールセンターフリーダイヤル (0120-761770)
マイナンバーカード全般：マイナンバー総合フリーダイヤル (0120-95-0178)

—「ソフト＆ハード」(読者の欄)への投稿のお願い—

読者の皆様、当振興会の広報誌「製粉振興」の内容を、より親しみのもてるものにするために、次のような内容の投稿をお待ちしていますので、記事をお寄せ下さい。

また、この広報誌の内容の充実を図っていきたくて考えていますので、ご意見等がございましたらお寄せ下さい。

- ・テーマは、小麦や小麦粉製品についての随想、紹介等と考えていますが、小麦と関係のない趣味などの話でも結構です
- ・投稿者名は実名でも筆名でも結構です
- ・長さは1,200字程度(1頁)とします
- ・掲載分には薄謝を進呈します



★ 編集後記

●本年も「製粉振興」をよろしく願います。1月号恒例の「10大ニュース」ですが、2021年もCOVID-19の感染拡大とその影響が社会や経済を覆い尽くしたと歴史に刻まれるであろう大きな出来事でした。収束は残念ながら2022年に持ち越しとなり、まだしばらくは何事も感染防止と折り合いをつけながらという状況が続くそうです。しかしそうした中でも、小麦粉食品関係で昨年はマリトッツオや台湾カステラ、フルーツサンドがブームとなったり、いくつかの製粉工場の改築や新設などの前に向いた動きもみられます。本誌でもそうした未来に向いた明るい話題を種々取り上げたいと念ずる次第です。

昨年5月号の小欄で編集人が長年応援しているガールズグループに触れました。結局結成11年目の1年間はライブや新曲のプロモーション活動も抑えめとならざるを得ませんでした。新年早々今年5月4日にLINE CUBE SHIBUYA(渋谷公会堂)で12周年記念ライブを行うとの発表がありました。この1、2年の流れの中で2千人規模の大会場に打って出ることは大きな賭けとも見えますが、将来につなげていくためにはここで負けられないということでしょう。COVID-19の行方は見通せませんが、是非感染防止を徹底して応援に駆けつけたいと新年の予定の一つ加えた次第です。

編集人

●新年明けましておめでとうございます。読者の皆様の益々のご発展とご健勝を心からご祈念しております。

さて、昨年12月から「製粉振興」の編集業務を前任の剣持氏から引継ぎました「稲谷久雄(いなたにひさお)」と申します。まだ不慣れではありますが、一生懸命頑張りますので、どうぞよろしく願い致します。

最近のコロナの状況はとても心配なところではありますが、改めて気を引き締めて感染予防を徹底したいと思います。

稲谷久雄

●新年明けましておめでとうございます。本年が皆様にとって実り多き1年となりますようご祈念申し上げますとともに、引き続き本誌「製粉振興」をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

今年弊会ホームページのリニューアルを予定しております。小麦粉に関する詳しい情報や資料などは今までどおりとなっておりますし、新たに会員ページや冊子の申込みなどもできる機能も付きました。次号が出るまでにはオープンできると思いますので、楽しみにしててください。

編集者S

製粉振興 1月号 (No.616)

発行／令和4年1月20日

編集発行人／佐藤 秀夫

発行所／一般財団法人 製粉振興会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町15番6号
製粉会館2階

Tel.(03) 3666-2712 (代表)

Fax.(03) 3667-1883

<http://www.seifun.or.jp>

E-mail:seifunshin@mri.biglobe.ne.jp

禁無断転載

本誌において、個人名による掲載文のうちの意見にわたる部分は、
筆者の個人見解である。